Women Empowerment

Report 2024

女性のエンパワーメント 年次レポート2024

JFA .WE LEAGUE

©JFA

CONTENTS

03　ごあいさつ
04　女性のエンパワーメント原則（WEPs）とは、WEPs の 7 原則
06　署名の背景・目的
08　年次レポートが果たす役割

活動報告

10　[原則 1] トップのリーダーシップによるジェンダー平等の促進
19　[原則 2] 機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃
32　[原則 3] 健康、安全、暴力の撤廃
36　[原則 4] 教育と研修
45　[原則 5] 事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動
50　[原則 6] 地域におけるリーダーシップと参画
52　[原則 7] 透明性、成果の測定、報告
53　女子サッカーインフォメーション（2024 年トピックス）

本レポートの作成にあたり

2020 年 10 月 23 日、日本サッカー協会（JFA）と日本女子プロサッカーリーグ（WE リーグ）は、国連グローバル・コンパクトと UN Women が共同で作成した「女性のエンパワーメント原則（Women's Empowerment Principles/WEPs）」に署名し、参加することとしました。

日本国内の競技団体の参加は JFA と WE リーグが初めてであり、WEPs に参加することによって女性が力を発揮できる労働環境・社会環境を整備することへの強い意思を示すとともに、サッカー界での女性活躍を推し進めながらスポーツ界を牽引していきたいと考えています。

署名以前より、また署名を契機として、さまざまな取り組みを行っていますが、特に 7 つの原則に従ってその取り組みを年次でしっかりフォローするために、年次レポートを作成することとしました。すぐに成果が出るものばかりではありませんが、取り組みを統合してパワーを持って推進していくこと、取り組みを内外に明示すること、成果や課題をフォローしていくとを目的としています。

署名した 2020 年をゼロ年として、年次レポートを作成し、発信してきました。こうした形で作成することで、このトピックに関してまとまった形で発信でき、サッカー界の皆さんに届け、お伝えすることができた実感がありました。

今回、4 年目のレポートを作成しました。順調に向上している部分もありながら、後退した部分もあった 1 年となりました。この事実を確認しつつ、一歩一歩、サッカーファミリーの中でさらに取り組みを深めていきます。

本誌では、活動時もしくは 2024 年 12 月
現在の所属や役職で掲載しています。

FIFA WOMEN'S development PROGRAMME

ごあいさつ

宮本　恒靖

公益財団法人 日本サッカー協会
（JFA）会長
公益社団法人 日本女子プロサッカーリーグ
（WE リーグ）副理事長

日本サッカー協会（JFA）が「女性のエンパワーメント原則（WEPs）」に署名してから 5 年がたちました。WEPs を指標に改革を進める中で、女子サッカーを取り巻く環境は変化しつつあります。

今年の役員改選で JFA の理事会は 15 人のうち 6 人が女性となり、スポーツ団体ガバナンスコードが求める“女性理事の目標割合 40%”を達成。役員や経営層人材を養成する「JFA/WE リーグ女性リーダーシッププログラム」もこの 5 年間で 60 人以上が受講され、それぞれキャリアアップを図りながら、都道府県サッカー協会や J リーグ、WE リーグ、クラブ、競技団体などでスポーツの発展に貢献されています。

フットボールの領域でも女性活躍の場は広がっています。指導者養成の充実により、WE リーグのチームや WE クラブ所属の選手を指導できる A-Pro ライセンスや男子プロチームなどを指揮できる Pro ライセンスを取得する女性指導者が増加。また、女子サッカーの価値向上を目指す国際サッカー連盟の動きもあり、男子の世界大会などで女性審判員が登用されるようになったほか、女性アスリートの健康・パフォーマンス向上に資する研究も進められるなど、さまざまな取り組みがなされています。

女子サッカーの普及や WE リーグの人気拡大など課題はまだありますが、WEPs の原則、そして今年 4 月に発表した「アクセス・フォー・オール宣言」を両輪に、誰もが、ジェンダーや国籍、障がいの有無に左右されることなく能力や個性を発揮できる環境づくりを推し進めていきます。

©WE LEAGUE

野々村　芳和

公益社団法人 日本女子プロサッカーリーグ
（WE リーグ）チェア
公益財団法人 日本サッカー協会
（JFA）副会長
公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
（J リーグ）チェアマン

2021 年に日本初の女子プロサッカーリーグとして誕生した WE リーグは、今シーズンで 4 年目を迎えました。WE リーグの掲げる理念「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」への共感も広がり、今シーズンはリーグタイトルパートナーにＳＯＭＰＯホールディングス様、カップタイトルパートナーにクラシエ株式会社様を迎えることができました。

世界に目を向けると、女子サッカーの発展は急速に進んでいます。FIFA 女子ワールドカップやオリンピック競技大会、各国の女子プロリーグの成長は、競技レベルの向上とともに、女子サッカーが女性活躍の象徴として社会に大きな影響を与えていることを示しています。

このような国際的な流れに対応し、日本でも女子サッカーが世界で戦える競争力を備え、さらに注目される存在となるよう努力を続けなければなりません。WE リーガーたちがフィールドで見せる情熱と輝きは、女性活躍そのものを体現するものであり、次世代のロールモデルとして社会全体にポジティブな変化をもたらすと信じています。

JFA、J リーグを巻き込んだサッカー界全体で、女子サッカー全体の価値向上を目指すことが、理念の実現に近づいて行くことと信じて、邁進してまいります。

©JFA

女性のエンパワーメント原則とは？

[Women's Empowerment Principles ／ Weps]

「女性のエンパワーメント原則（WEPs)」とは、企業がジェンダー平等を経営の核に位置付け、自主的に取り組むための行動指針です。持続可能で包摂的な経済成長に不可欠であるジェンダー平等を達成すると同時に、企業の経済的・社会的価値を高めることを目指しています。7つの原則は、「職場（社内)」「市場（マーケットプレース)」「地域コミュニティ（社会)」を網羅し、企業が社会的責任のある主体としてジェンダー平等に取り組むことを推奨しています。

2010年3月に国連グローバル・コンパクトと国連婦人開発基金（UNIFEM、現 UN Women）が共同で策定し、2018年より、UN Women が事務局（https://www.weps.org/）を担っています。

WEPs の対象は、企業（民間、公共、政府系、組合、スタートアップ)、業界団体、商工会議所です。法令に基づいて設立された組織体であれば、規模や業界は問いません。署名、実施、報告の３つが基本的なステップです。署名をすることでコミットメントを表明し、7つの原則に沿った取り組みを行い、進捗状況と成果を自発的に報告することが期待されます。

WEPs は、2010年3月8日に策定された女性の活躍推進に積極的に取り組むための行動原則で、企業が現行の慣習や基準、行動を調査し分析するための実践的な手引きとなります。世界で WEPs に参加している企業／団体は 10,268（2023年は 8,963）で、日本国内では 2024年11月現在、235の企業／団体が参加しています。

WEPs の7原則

原則 1

▶ 企業トップによるリーダーシップ

本レポートでは → トップのリーダーシップによるジェンダー平等の促進

ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを重要経営課題として位置付け、マネージメントと事業活動に浸透させるには、企業トップのコミットメントとリーダーシップが不可欠です。CEO や経営トップ層が、企業の方針、経営戦略、日々の業務、そして組織文化に WEPs7 原則を取り入れることでジェンダー平等と女性のエンパワーメントを実現するという強い意思を社内外に示すと共に、自らがその取り組みをリードしましょう。

原則 2

▶ 職場におけるジェンダー平等

本レポートでは → 機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃

性別に関わらず、すべての労働者に対して公平で差別のない待遇を保障することは、国際的に認められた人権の基準の基本原則です。公平な職場環境は、多様な人材の獲得、定着率・満足度の向上、生産性の向上、より良い意思決定にも寄与します。方針、戦略、組織文化、慣行に存在するあらゆる形態の差別の撤廃は、WEPs における最も重要な取り組みの一つです。雇用形態による賃金、能力開発、職場でのキャリアの可能性の差をなくし、全ての従業員が少なくとも基礎的な生活保障とやりがいを持って働ける環境を整備しましょう。また、従来の性別役割分業意識や男性稼ぎ手モデルを前提とした制度、慣行、働き方の変革を通じて、男女が家事・育児・介護などの家庭内のケア責任を分かち合えるようにすることが求められています。

本レポートにおける各原則のステートメントについて

WEPs は企業やさまざまな団体を対象に各原則を定めていますが、JFA と WE リーグは一般的な企業とはやや異なる組織体であることを鑑みて、各原則の行動方針はそのままに、項目名称を実際のアクションに合わせる形で変更しています。

原則 3

▶ 従業員の健康、ウェルビーイング、安全

本レポートでは → 健康、安全、暴力の撤廃

雇用主は、性別に関わらずすべての従業員の心身の健康、安全、ウェルビーイングの維持と促進に重要な役割を担います。セクシュアル・ハラスメント及びあらゆる形態の暴力が放置されることにより、特に、女性従業員は大きなダメージを受けます。休職などで収入が減少したり、昇進の機会を逃したり、心身の健康を損なったりする可能性があるからです。従業員の欠勤や生産性の低下といった形で企業にも損失が生じます。適切に対応しましょう。

原則 4

▶ 女性のキャリアアップを可能にする教育と研修

本レポートでは → 教育と研修

女性が能力を伸ばし、経験を積み、昇進できるようにするためには、女性を対象とした育成プログラムと、すべての従業員を対象としたジェンダーギャップに関する教育の両方が不可欠です。女性の育成プログラムでは、キャリアアップを目的とした研修、ネットワーキング、メンタリングを組み合わせることで、管理職・役員クラスのパイプラインを強化することができます。従業員向けの教育では、ジェンダー平等の推進が自社の方針や事業とどう結びついているかを理解し、共通の理念と価値観を醸成すること、誰もが持つアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）がいかに女性のキャリアアップの阻害要因になり得るかを理解し、対処できるようにすることが重要です。

原則 5

▶ サプライチェーン・マネージメントとマーケティング

本レポートでは → 事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動

この原則は、企業が社内だけではなく、サプライチェーンを含む「市場（マーケットプレース）」や社会規範の形成に対しても責任のある主体であることを前提としています。女性と女の子に対するネガティブで画一的な固定観念は、ジェンダー平等の実現を阻む最も大きな要因の一つです。企業広告は、こうした固定観念や社会規範の形成に大きな影響を及ぼします。女性と男性、女の子と男の子が、従来の固定観念にとらわれず、現代的で多様な役割を担っている様子を表現することで、社会に深く根付いているジェンダーバイアスに変革を起こすことができます。インクルーシブ（包摂的）なサプライチェーン方針や、多様なステークホルダーとのエンゲージメントを通じて、企業はさまざまなビジネスパートナーとともにジェンダー平等を推進することができます。

原則 6

▶ 社会貢献活動とアドボカシー（啓発）

本レポートでは → 地域におけるリーダーシップと参画

この原則は、企業が社内だけではなく、事業活動を展開する「地域コミュニティ」や社会に対しても責任のある主体であることを前提としています。国際社会共通の目標であるジェンダー平等と女性のエンパワーメントの実現に向けて、企業が自らの資源や影響力を活用することが期待されています。近年、SDGs への関心の高まりとともに、多くの消費者が商品やサービスを購入する際に、「ジェンダー平等の視点に根差した事業活動を行っている企業」や「ジェンダー問題や女性支援に取り組む企業」を選んでいるという動向もあります。

原則 7

▶ 成果のモニタリングと報告

本レポートでは → 透明性、成果の測定、報告

WEPs に署名することによって表明したジェンダー平等と女性のエンパワーメントへのコミットメントを遂行する際に重要なのは、透明性と説明責任です。定期的に進捗状況や成果をチェックする仕組みをつくり、報告していきましょう。数値で表せない成果もありますが、測定することで、進捗状況の把握と次のステップにつなげるための評価が可能になります。また、積極的な報告や情報開示は、投資家、消費者、人材からの評価を高めます。

出典：『女性のエンパワーメント原則（WEPs）• ハンドブック』より

署名の背景・目的

女性活躍社会実現のために戦略的な取り組みが必要

2020 年 10 月 23 日、JFA と WE リーグは、スポーツ団体では初となる WEPs に署名を行い、女性活躍に対して、組織として積極的に取り組んでいくことを内外に明示しました。（参照：https://www.jfa.jp/women/we_league/news/00025566/）

「ジェンダー平等」は、長きにわたり、世界中で取り組み続けられている大きな課題です。日本においても、「女性活躍社会」が日本社会の中での長年の課題であり、その実現に向けて社会全体での取り組みがなされています。一方で、なかなか改善に進まない非常に根深い課題でもあります。グローバルジェンダーギャップ指数（下表および次ページ上表参照）が示すように、**相対的に見て日本の女性活躍は、2024 年において 146 カ国中 118 位（2023 年は 146 カ国中 125 位）と非常に遅れており、依然として先進国の中でも最下位です。**思うような変化が起こりにくい中で、「もう女性活躍ではないのでは」という声も聞かれます。

この数字に着目するのは、日本社会に生きている私達自身が、普段あまり問題に感じていない傾向にあるのではないかと思うからです。「それほど特別に女性が抑圧されたり不快な思いはしないで過ごしている」「女性のスポーツ参加や社会参加が進んでいないが、他の国も同じようなものなのではないかと思っている」「むしろ日本は平均的あるいはそれ以上の社会なのではないかと思っている」…周囲と話しているとそんな人が多いように感じています。しかし、この数字を見たときに、自分たちが当たり前と思っているこの状況が、世界中で同じ指標でフラットに見たときに、平均を大きく下回るということは大きな気づきであり、自分たちの当たり前を疑ってみる必要があると考えられます。

日本社会全体と同様、日本のスポーツ界においても、女性の人材活用は遅れています。スポーツ庁が出した「スポーツ団体ガバナンスコード」〈中央競技団体向け〉では、原則２の中で、「組織の役員及び評議員の構成等における多様性の確保を図ること」とされており、女性理事の目標割合（40%以上）が設定されました。変化を起こすためには、こうした目標割合の設定が必要であるということです。

サッカー界の状況も同様です。サッカーは、ある意味男性の競技の代表格とも言えるスポーツであり、その中で女性も楽しむ競技となってきた歴史があります。世界的に見ても、競技人口も関わる人も、その数に圧倒的な差があります。

世界のサッカー界においても、“Women in football”、サッカー界での女性活躍は、ホットトピックとして積極的に議論され、取り組まれています。社会的に女性活躍が進んだ国であっても、依然として大きな課題となっています。それでも世界でさまざまなパワフルな女性たちが積極的に取り組んでいる姿があり、非常に刺激になります。

日本サッカー界でも、女性役員、女性人材が不足しています。JFA は、中央競技団体として、スポーツ団体のガバナンスコードの目標達成に向け、取り組んでいく必要があります。社会的にこの課題は広く意識されており、さまざまなところで女性人材を積極的に登用しようという動きが近年増えてきているのは確かです。一方で、せっかく登用しようと思っても、候補者がいない、勧めても女性たちが積極的にそれを受けたがらない、という声も多く聞かれます。こうした側面も、この課題の典型的な部分であると言えます。それも含めて、戦略的な育成・強化とマインド変革が必要です。

ジェンダーギャップ指数（2024）日本のスコア

分野	経済	政治	教育	健康	総合
スコア	0.568	0.118	0.993	0.973	0.663
昨年のスコア	0.561	0.057	0.997	0.973	0.647
順位	120位	113位	72位	58位	118位

（世界経済フォーラム発表）

積極的かつ継続的な取り組み、サッカーファミリーとの共有

その契機の一つとして、JFA は日本女子プロサッカーリーグ「WE リーグ」発足を決め、2021 年 9 月に開幕しました。

WE リーグは、「Women Empowerment League」という名の通り、社会的意義を重視し、「女性活躍社会の牽引」を設立意義の一つに掲げ、女性役員・スタッフなどの配置目標も設定して取り組んでいます。「牽引する」とは、この難しい課題に対し、自ら具体的に実行して成果を出していき、もって社会に提示していくことを目指すということです。

数値目標を掲げ、一定の比率で人数を割り当てる制度、いわゆる「クオータ制」にはさまざまな議論がありますが、変化を起こすきっかけを得るためには重要な「ポジティブアクション」です。そうする一方で、それを確実に機能させるために、研修などのサポートを行っていくこととしています。ゴールは「配置すること」ではなく、多様性の意義を、サッカー界で積極的に実践することで、実感し、それを当たり前にしていくこと、そしてスポーツ界や社会へと発信していくことです。

社会や文化に深く根ざした非常に重大なトピックであるため、何かに取り組み始めたからといってすぐに変化が起き、解決に近づくような簡単なものではありませんが、確実に身をもって実行していくこと、積極的にトライしていくこと、粘り強く継続的に取り組んでいくこと、それを広くサッカーファミリーと共有していくことで、多様性の意義を実現し、実感できるサッカー界を目指していきます。

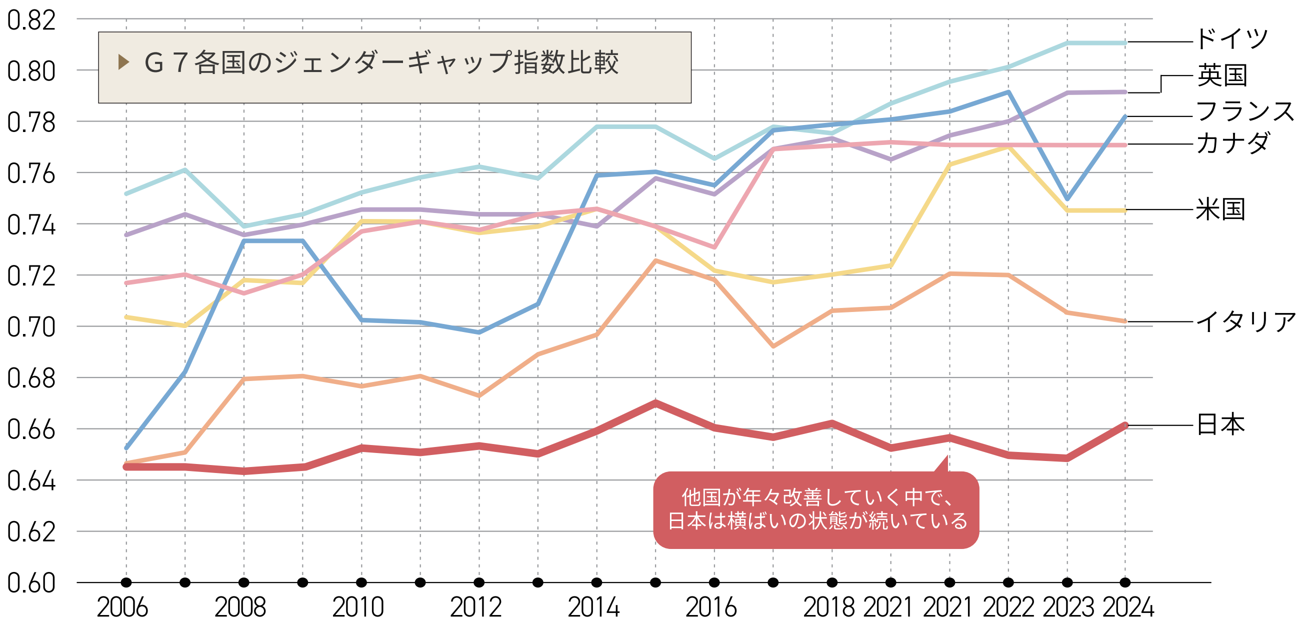
マイノリティの中の最大のマジョリティと言われる女性がこれを実現することで、真の多様性の推進、サッカー・スポーツのさらなる発展に寄与していくことが私たちの願いです。

ジェンダーギャップ指数（2024）上位国及び主な国の順位

順位	国名	値	前年値	前年からの順位変動
1	アイスランド	0.935	0.912	
2	フィンランド	0.875	0.863	▲1
3	ノルウェー	0.875	0.879	▼1
4	ニュージーランド	0.835	0.856	
5	スウェーデン	0.816	0.815	
6	ニカラグア	0.811	0.811	▲1
7	ドイツ	0.810	0.815	▼1
14	イギリス	0.789	0.791	▲1
22	フランス	0.781	0.756	▲18

順位	国名	値	前年値	前年からの順位変動
24	オーストラリア	0.780	0.778	▲2
43	アメリカ	0.747	0.748	
70	ブラジル	0.718	0.728	▼13
94	韓国	0.696	0.680	▲11
106	中国	0.684	0.679	▲1
117	ネパール	0.664	0.660	▼1
118	**日本**	**0.663**	**0.647**	**▲7**
119	コモロス	0.663	0.664	▼5
146	スーダン	0.568	-	

（世界経済フォーラム発表）



※2018年公表まではレポートが公表されていたが、2019年公表分は「GGGR 2020」となり、2020年のインデックスとして公表されたため、年の数字が連続していない

女子サッカー発展のために WEPs 年次レポートが果たす役割

世界の女子サッカー発展の機運をつかむ

2023 年 7 〜 8 月に行われた FIFA 女子ワールドカップ オーストラリア＆ニュージランド 2023 は、ヨーロッパで開催された UEFA 女子 EURO（欧州女子選手権）2022 に続き、あらゆる面で史上最高をたたき出し、パフォーマンス面でも社会面でも大成功を収めました。「女子の」ということではなく「サッカー」として語られ、これまでの観客に加えて新たなオーディエンスを獲得したとされ、女子サッカーの価値が高まったことが証明された大会と評価されました。決勝に際して開催された FIFA 女子サッカーコンベンションでも、「この機運、そして新たに獲得したオーディエンスを失いたくない。今こそその時！開いた扉を閉じてはならない」ということが共有されました。

近年、ヨーロッパのビッグクラブを中心に、女子サッカーへの投資が始まっています。プロフェッショナル化、プレー環境が劇的に向上していることなどから、サッカーのレベルは上がり、多くの観客が集まる試合も出てきています。その広がりはヨーロッパだけでなく、アメリカの女子サッカーリーグの活況を筆頭に、南米などでもリーグのプロ化をはじめとした投資の促進が起こっています。それが代表選手、代表チームのパフォーマンスにも影響を与えるようになってきました。

なでしこジャパン（日本女子代表）は、2023 年のワールドカップでベスト 8、2024 年の第 33 回オリンピック競技大会（2024/ パリ）でもベスト 8 という結果でしたが、ピッチ内でのパフォーマンスはもちろん、リスペクト・フェアプレーをはじめピッチ内外で大会の成功に大きく貢献したと評価されました。2024 年には他に、U-17、20 の育成年代のアジアカップとワールドカップも開催されました。U-17 女子ワールドカップドミニカ大会ではベスト 8、U-20 女子ワールドカップコロンビア大会では準優勝、フェアプレー賞、個人賞獲得等、多くの個性豊かな選手たちが後に続いています。

一方で、FIFA ではこの成長を加速させるべく、女子サッカーストラテジーの第 2 弾、またクラブとリーグの発展をまとめたレポート“Setting the Pace”の第 3 弾を発行しています。世界の女子サッカーのこうした機運をつかみ、WE リーグとともに、日本でもぜひとも女子サッカー発展の好循環を生み出したいのです。

FIFA Women's Football Strategy:2024-2027
https://digitalhub.fifa.com/m/16fe7c8e9a285f15/original/FIFA-Women-s-Football-Strategy-2024-2027_EN.pdf

Setting The Pace – FIFA Women's Football Benchmarking Report
https://digitalhub.fifa.com/m/4220125f7600a8a2/original/FIFA-Women-s-Benchmarking-Report-2023.pdf

女子サッカー発展の歩み

世界的に、女子サッカーは 19 世紀に始まり、その後、人気を博していったとされ、女性初の試合開催は 1895 年と記録されています。しかし 1921 年、サッカーの母国・イングランドでは女性へのグラウンドの貸し出しを禁止とし、他国もそれに続きました。実にそこから 50 年後、1971 年にようやくこの通達が破棄され、そこから女子サッカーが再開。そして、国際サッカー連盟（FIFA）が初めて女子の国際試合を公認し、また各国協会で女子サッカーにも取り組むように通達。そこから約 50 年の歴史の中で、発展を遂げてきました。

日本でも同様に、明治時代末期から大正期に、全国の高等女学校において授業や運動会でサッカーを行った記録がありますが、その後は中断。兵庫県神戸市での女子同士の最初の試合が 1967 年、女子サッカー連盟ができて登録が始まったのが 1979 年です。男子サッカーからは後発ですが、多くの方の情熱と尽力によってここまで発展してきました。1989 年には日本女子サッカーリーグが誕生。それを基盤に、1991 年に初開催された FIFA 女子ワールドカップ（当時は FIFA 女子世界選手権）において、日本は第 1 回から 9 大会全てに出場している 7 カ国のうちの一つとなっています。そして 2011 年には、なでしこジャパンがワールドカップで初優勝。U-17 日本女子代表、U-20 日本女子代表がそれに続き、3 カテゴリーすべてのワールドカップを制覇した最初の国となりました。

世界の女子サッカーも日本の女子サッカーも、ほぼ同様の短い歴史の中で急速に発展を遂げています。全世界の人口の半分は女性ですので、女子サッカーにはまだまだ大きな伸びしろがあります。

また、文化・社会的に女性の社会進出が後進であったアジアの一部の国々でも、女子サッカーが確実に根づきつつあります。

女子とサッカーを考える上での２つのエリア

「女子」と「サッカー」を考える上で、２つのエリアがあります。

「女子サッカー」と言うと、主に女子同士で行うサッカーが想定されがちですが、FIFA でも「女子が行うサッカー」と「サッカーにおける女性」の２つがあるとしており、この両方をカバーして発展させていく必要があります。

キッズ年代から大人に至るまで、男女ミックスの環境でサッカーをする人たちも多く、またその状況は年齢や時期、地域によって異なります。女子が行うサッカーを豊かにしようと考えたときに、より広く目を配る必要があり、よりさまざまな人たちに関わってもらう必要があります。日本サッカーをさらに広げていくためにも、女子サッカーの発展は欠かせません。

サッカーに関わる女性という意味で、女子サッカーのみならず、サッカーやスポーツに関わる女性にも目を向けていく必要があります。現状は、主に女子サッカーに関わる人材が想定されますが、それだけではなく、サッカー全体に関わっているさまざまな人材もいます。こうした人材を含めて、もっと関わる人を増やしていくことが重要です。

「意思決定機関にもっと女性を」と言われますが、どうすればもっと女性をはじめとする多様な人に楽しんでもらえるかを考えていく必要があります。そのためには、多様な視点やマインドが必要であり、ともすればそれは日本サッカーにおいて、これまで欠けていたものかもしれません。

©JFA

女子サッカーは日本サッカー全体に関わるもの

日本サッカー協会（JFA）は「JFA2005 年宣言」、また 2022 年に発表した「Japan's Way」の中で、サッカーファミリーを拡大し、世界一サッカーで幸せな国になることを目指すとうたっています。もともと男性と同じ人数を擁する女性がもっと関わっていくことで、それが実現に近づいていくはずです。

JFA 女子委員会が掲げる「なでしこ vision」の前文では、以下のように記しています。

「JFA の理念、ビジョン、約束」を実現するために、
そして、女子サッカーを文化にするために、
「世界のなでしこになる。」というビジョンのもと、
日本サッカーに関わる全ての人々が共有し、遂行する、
３つの目標を定める。

女子サッカーが女子サッカーのためだけにあるのではなく、日本サッカー全体に関わるものであり、携わる全ての人と共有し遂行していく、ということです。また後文には、以下のように記しています。

そして、女性が輝く社会を
サッカー、スポーツのあらゆる場に女性が関わり、
ポテンシャルを発揮できる社会の実現を目指す。
女子サッカーがその固有の価値で、
日本・アジア・世界の、サッカー・スポーツ
そして社会の発展に貢献する。

女性が、意思決定機関ばかりでなく、サッカーのあらゆる場に関わっていくこと、そして持てる力を発揮できるようにしていくこと。男子サッカーのミニチュアではない女子サッカーの固有の価値を向上させ、伝えていくこと。それをもって日本サッカーに貢献していくこと。これらを実現していくことが求められています。

2024 年は、順調に向上している部分もありつつ、後退もあり、この課題の本質的な難しさをあらためて実感させられる一年となりました。

世界の女子サッカー発展の大きなポイントに立った今、この WEPs 年次レポートに示す情報が、より広く、多くの人に伝わり、広範囲での動きにつながり、先に掲げたあらゆることの実現に向けた一助となることを願ってやみません。

原則1

トップのリーダーシップによるジェンダー平等の促進

JFA なでしこ vision

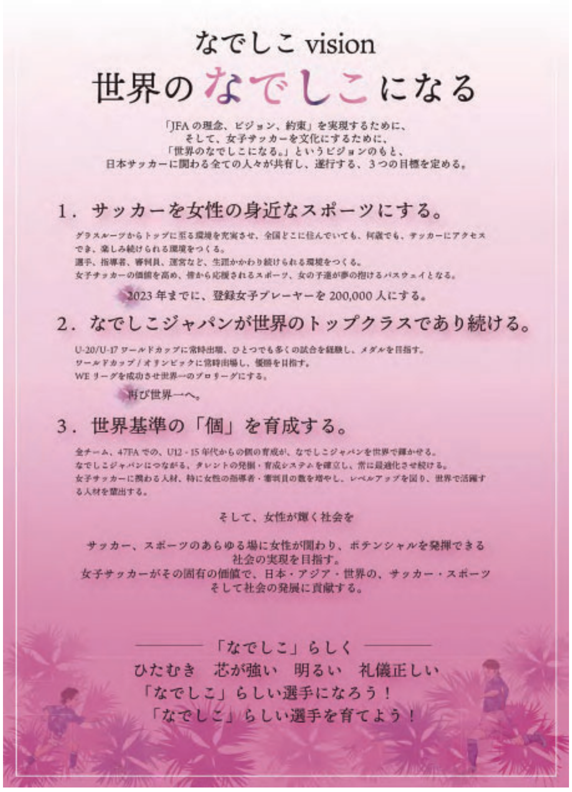
「JFA2005年宣言」を受けて、女子サッカーをどのように発展させていくかというビジョンである「なでしこvision」を2007年に策定し、定期的に改訂を重ねています。

2015年の改訂では、下記の女性活躍に言及する文言を追加。2022年に新たに改訂を加え、現在に至ります。

そして、女性が輝く社会を

サッカー、スポーツのあらゆる場に女性が関わり、ポテンシャルを発揮できる社会の実現を目指す。

女子サッカーがその固有の価値で、日本・アジア・世界の、サッカー・スポーツそして社会の発展に貢献する。



JFA 公式 Web サイト
https://www.jfa.jp/women/nadeshiko_vision/

JFA JFA 理事会

2024年4月の役員改選、新体制において、JFA理事会の女性理事数4割（15人中6人）を達成しました。

JFA 公式 Web サイト
https://www.jfa.jp/about_jfa/organization/jfa_structure/excutive_committee.html

JFA JFA 規則：妊娠 / 出産に関わる契約上の不利益の禁止

選手・スタッフたちが妊娠や出産に関わるところで契約上の不利益を被ることがないように、以下の事項を規則として定めています。

- 妊娠 / 出産した選手の各種権利の保障
- 妊娠 / 出産を理由にした契約破棄の禁止
- 妊娠 / 出産した選手に係る登録上の例外ルール
- 出産後にサッカー活動を再開した選手への配慮義務

FIFAでは、2024年7月、この規約に女性アスリートに加えて女性指導者についてもカバーする方向を提示しています。
（REGULATORY FRAMEWORK FOR THE PROTECTION OF FEMALE PLAYERS AND COACHES JULY 2024）

FIFA 公式 Web サイト
https://digitalhub.fifa.com/m/341fd8d9f981df59/original/FIFA-regulatory-framework-for-the-Protection-of-female-players-and-coaches.pdf

JFA JFA 女子サッカーデー

国際連合（国連）が定める毎年３月８日の「国際女性デー」を、2019 年より「JFA 女子サッカーデー」と定め、女子サッカー、女性活躍に向けて、「世界でいちばんフェアな国になろう」というスローガンを掲げ、社会面と普及面の両面で取り組みを行っています。47 都道府県サッカー協会にも呼び掛け、それぞれ活動をしています。アジアサッカー連盟（AFC）でも、JFA に先立って、「女子サッカーデー」としてアジア全体で女子サッカーに関わる活動をする日としています。JFA として、その活動とも連動しています。

2024 年３月には、JFA のほかに、WE リーグ、なでしこリーグ、女子 F リーグ、全日本大学女子サッカー連盟といった女子競技組織だけでなく、日本ビーチサッカー連盟、日本障がい者サッカー連盟、日本フットボールリーグ、F リーグといった各連盟とも連携して実施しました。

JFA 公式 Web サイト
https://www.jfa.jp/women/womensfootballday2024/

全国での女子サッカーデーの開催

毎年この時期に、全国の都道府県サッカー協会で女子サッカーデーのイベントを実施をしていただいています。

開催 FA	開催日	イベント名	会場
北海道	3 月 10 日	オンライン講演会「挑戦しつづけること、成長への鍵〜二人の女性国際審判員に学ぶ」	オンライン
青森県	3 月 10 日	JFA Magical Field Inspired by Disney ファミリーサッカーフェスティバル "First Touch" in 青森	五戸町屋内トレーニングセンター五戸ドーム
山形県	3 月 20 日	JFA 女子サッカーデー　山形 2023（女子選手限定セルフテーピング講習会）	山形市総合スポーツセンター
福島県	3 月 10 日	JFA 復興支援フェスティバル・女子サッカーデー 2023	J ヴィレッジ
茨城県	3 月 30 日	JFA 女子サッカーデー／なでしこひろば in 鹿嶋	ト伝の郷運動公園
栃木県	3 月 2 日	JFA 女子サッカーデー in 栃木県グリーンスタジアム ①キッズリーダー養成講習会女子コース開催 ②ガールズ / レディースエイト開催	栃木県グリーンスタジアム
東京都	2 月 11 日 -21 日	JFA 女子サッカーデー女性審判員研修会	駒沢第一球技場他
神奈川県	3 月 18 日	JFA なでしこひろば “セカンドタッチ” in かながわ・かもめパーク	かもめパーク フットサルコート
山梨県	3 月 10 日	JFA 女子サッカーデー in YAMANASHI	押原公園人工芝グラウンド
長野県	2 月 10 日	JFA 女子サッカーデー 2024 ガールズサッカーフェスティバル in 長野日大高校富竹グラウンド	長野日大富竹グラウンド
新潟県	2 月 16 日 -23 日	女子サッカーデー in 三条	三条市体育文化会館
富山県	2 月 25 日 3 月 10 日	コラーレ TOYAMA レディースサッカーフェスティバル 2024 コラーレ TOYAMA なでしこサッカーフェスティバル 2024	アイザックスポーツドーム 富山県総合運動公園屋内グラウンド
福井県	3 月 24 日	JFA ファミリーサッカーフェスティバルファーストタッチ	日東シンコースタジアム丸岡
滋賀県	2 月 12 日	JFA 女子サッカーデー	ブランチ大津京
京都府	3 月 8 日 ,9 日	JFA 女子サッカーデー in 第 25 回京都女子サッカーフェスティバル	下鳥羽公園球技場
大阪府	3 月 10 日 3 月 17 日	JFA 女子サッカーデー in ヨドコウ桜スタジアム JFA 女子サッカーデー in 万博記念競技場	ヨドコウ桜スタジアム 万博記念競技場
兵庫県	2 月 23 日	JFA 女子サッカーデー in 三木防災公園	兵庫県立三木総合防災公園第 1 球技場
奈良県	3 月 17 日	女子サッカーデー 2023 in 奈良	奈良県フットボールセンター
和歌山県	3 月 16 日 ,17 日	女子サッカーデー	やたがらすサッカー場
島根県	3 月 16 日	女子サッカーデー	出雲健康公園多目的広場
岡山県	3 月 17 日	JFA 女子サッカーデー in 岡山	灘崎町総合運動公園サッカー場
徳島県	3 月 16 日	JFA 女子サッカーデーウォーキングフットボールイベント	上桜スポーツグラウンド
愛媛県	2 月 11 日 -17 日	JFA 女子サッカーデー 2023 愛媛	今治市営中央体育館
福岡県	3 月 10 日	JFA 女子サッカーデー 「サッカー 3 級審判昇級研修会」「ウォーキングフットボール体験会」	雁ノ巣レクリエーションセンター
鹿児島県	3 月 2 日 ,3 日	KFA 第 36 回鹿児島県なでしこサッカー大会	桷志田サッカー競技場

JFA 女子サッカーデー

また、今年は、新たな趣向として、女子の球技・チーム競技と連携し、様々な取り組みを実施しました。

「女子スポーツの歩みとこれから」オンラインパネルディスカッション

各女子スポーツの現状や抱えてきた課題を共有しながら、女子スポーツを文化にしていくために何ができるのか、各女子スポーツの代表者とともに語り合うパネルディスカッションを実施しました。女性が生涯を通じてスポーツを楽しめる環境を実現するために、一人ひとりがスポーツを通じて喜びや楽しみを分かち合える未来をスポーツの垣根を越えて考えました。

- 日時：2024 年 3 月 5 日 (火) 12：15 ～
- 登壇者：

  公益財団法人日本サッカー協会
  　専務理事　宮本恒靖氏
  公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ（WE リーグ）
  　代表理事　髙田春奈氏
  日本ラグビーフットボール協会
  　副会長　　浅見敬子氏
  一般社団法人全日本女子野球連盟
  　会長　　　山田博子氏

JFA 公式 YouTube
https://www.youtube.com/watch?v=4_qpak4mSt4&t=3s

共同メッセージ動画公開

全日本女子野球連盟と日本サッカー協会、日本女子サッカーリーグ（WE リーグ）、日本ラグビーフットボール協会は 8 日、国連が制定した「国際女性デー」に合わせて、「創る、繋がる、拓（ひら）く、踏み出す」をテーマに、共同メッセージ動画を公開しました。

全日本女子野球連盟公式 YouTube
https://www.youtube.com/watch?v=PbCHtS2EHkc

「JFA 女子サッカーデー 2024 マルチスポーツフェスティバル」開催

性別、年齢、人種、障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツに参加できる環境づくりに取り組むことで、女性スポーツの普及と活躍の場を広げることを目的に、サッカー、ラグビー、野球の各団体と協力したイベントを開催することで、さまざまなスポーツとの出会いと体験の場をつくり、参加した方々がスポーツの楽しさや体を動かすことの喜びを体感いただくイベントを開催しました。

- 日程：2024 年 3 月 16 日 (土)
- 会場：高円宮記念 JFA 夢フィールド
  （千葉県千葉市美浜区美浜 11）

JFA 公式 X（旧 Twitter）
https://x.com/jfa_nadeshiko/status/1771078141144142168

©JFA/PR

HAPPY WOMAN FESTA 2024

HAPPY WOMAN 実行委員会が主催する、日本最大級の国際女性デーイベント「HAPPY WOMAN FESTA 2024」に WE リーグチェア髙田春奈氏が登壇しました。

- 日時：2024 年 3 月 8 日 (金)17：25 ～ 18：05
- 会場：ウェスティンホテル東京「楓（B1）」

JFA | .WE LEAGUE　WE リーグ開幕

「これは新しい日本のキックオフだ」を合言葉に、2020 年 7 月 1 日、WE リーグが設立されました。名称は「Women Empowerment League」。リーグを核として、関わる私たちみんな（WE）が主人公として活躍する社会を目指した、日本初の女子プロサッカーリーグです。

そして 2021 年 9 月 11 日、プレーでも、社会への貢献でも、世界一の女子サッカーリーグへまい進する「Yogibo WE リーグ」が開幕。北は仙台、南は広島まで、9 都県から 11 クラブが参加。プレナスなでしこリーグからの 9 クラブと女子チームが新設された 2 クラブの編成でした。それまで男子チームのみを保有していた大宮アルディージャとサンフレッチェ広島は、WE リーグ設立をきっかけに女子チームを新設しました。

欧米の主要シーズンに合わせて秋春制を採用したのも WE リーグの特徴です。ヨーロッパでは、ジェンダー平等の観点から、多くの主要クラブで女子チームを保有する動きが近年急速に進んでいます。2024 年 12 月の UEFA 女子チャンピオンズリーグの準々決勝、FC バルセロナ対レアル・マドリードでは 9 万 1,533 人の観客を動員しました。またアメリカでは、男女同一報酬（EQUAL PAY）に関する選手たちの運動により、アメリカサッカー連盟は、女子選手が代表チームで活動する際の報酬を男女同一にする内容の新たな労働協約に、男女それぞれの選手会と合意しました。世界において、女子サッカーの価値が高まっている中、すべての世代で FIFA 女子ワールドカップを制覇した日本女子サッカー界における、WE リーグに期待がかかっています。

初年度の 2021-22 シーズンは、INAC 神戸レオネッサが優勝。WE リーグアウォーズでは、個性豊かな衣装に身を包んだ INAC 神戸の選手たちが、WE リーグトロフィー「Women Empowerment Trophy」を掲げました。

3 シーズン目となる 2023-24 シーズンから、セレッソ大阪ヤンマーレディースを迎え、12 チームで開催しています。

© WE LEAGUE

© WE LEAGUE

.WE LEAGUE　WE リーグの名称とロゴ

.WE LEAGUE

WE リーグは「Women Empowerment League」の略称です。この名称には日本に"女子プロサッカー選手"という職業が確立され、女子が「サッカー選手」を夢見ることができる社会、関わる私たちみんな（WE）が主人公として活躍する社会を目指す、という思いが込められています。

また、ブランドモチーフの「●」（ドット）は、「サッカーの躍動感」「新たなつながり」「これからの日本」を表しています。

.WE LEAGUE　WE リーグの理念とビジョン

WE リーグは、「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」を理念としています。理念を具現化するために、理念へのコミットメントとして、リーグのみならず、一つひとつのクラブが、選手一人ひとりが、理念の推進に向けた意思表明を行っています。

理念の具現化には、リーグ戦の実施、女子サッカーチームの環境整備や選手育成といったサッカー事業と、社会に働き掛ける社会事業の２つの要素が不可欠です。

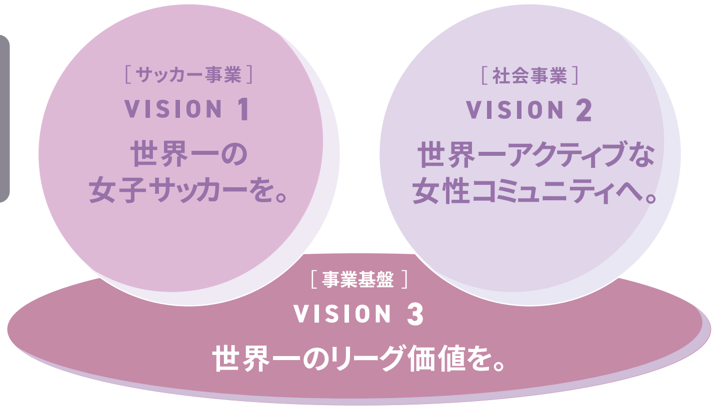
WE リーグでは、理念の実現に向けた３つのビジョンを策定しています。「VISION 1」であるサッカー事業と、「VISION 2」である社会事業の両輪を WE リーグの事業として定め、その２つのビジョンを支える事業基盤の構築を「VISION 3」として推進することで、理念の実現に向けて活動していきます。

理念

女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する。

VISION 1

① 世界トップ水準の競技力、選手・スタッフの輩出
② 日本全国で女子サッカーの競技力のボトムアップの実現
③ 日本各地に女子がサッカーを楽しめる場を広げる



VISION 2

① 女性が起点となり、社会全体に前向きな変化を生み出す原動力になる
② スポーツの枠を超えて、個人、団体、企業の集まるプラットフォームとなる

VISION 3

① 社会面、競技面の発展を支える、リーグ基盤（財政・組織）を確固たるものとする
② リーグの本質的価値を事業成果としてあらわす
③ 多種多様な働き方を内包した、社会のロールモデルとなる組織を実現する

.WE LEAGUE　理念推進のために設定した参入基準

※原則２にも該当

リーグの理念を推進するために、下記の参入基準を設定しました（理念に関わる部分を抜粋）。

［法人を構成する人員における女性の登用］

当該クラブの運営にあたる法人を構成する役職員の50%以上を女性とする。同一法人内で複数のチームを運営している場合は、当該クラブの運営にあたる組織を明確に示すこと（入会から３年以内に達成すること）。

［役員における女性の登用］

当該クラブの意思決定に関わる者のうち、少なくとも１人は女性とすること（取締役以上が望ましい）。

［トップチーム、アカデミーチームスタッフ］

コーチングスタッフ（監督またはコーチ）の中に女性指導者１人以上を含むこと。

［託児施設の設置］

ホームスタジアムに授乳室および託児施設を設置すること。

.WE LEAGUE　WE リーグクレド（行動規範）

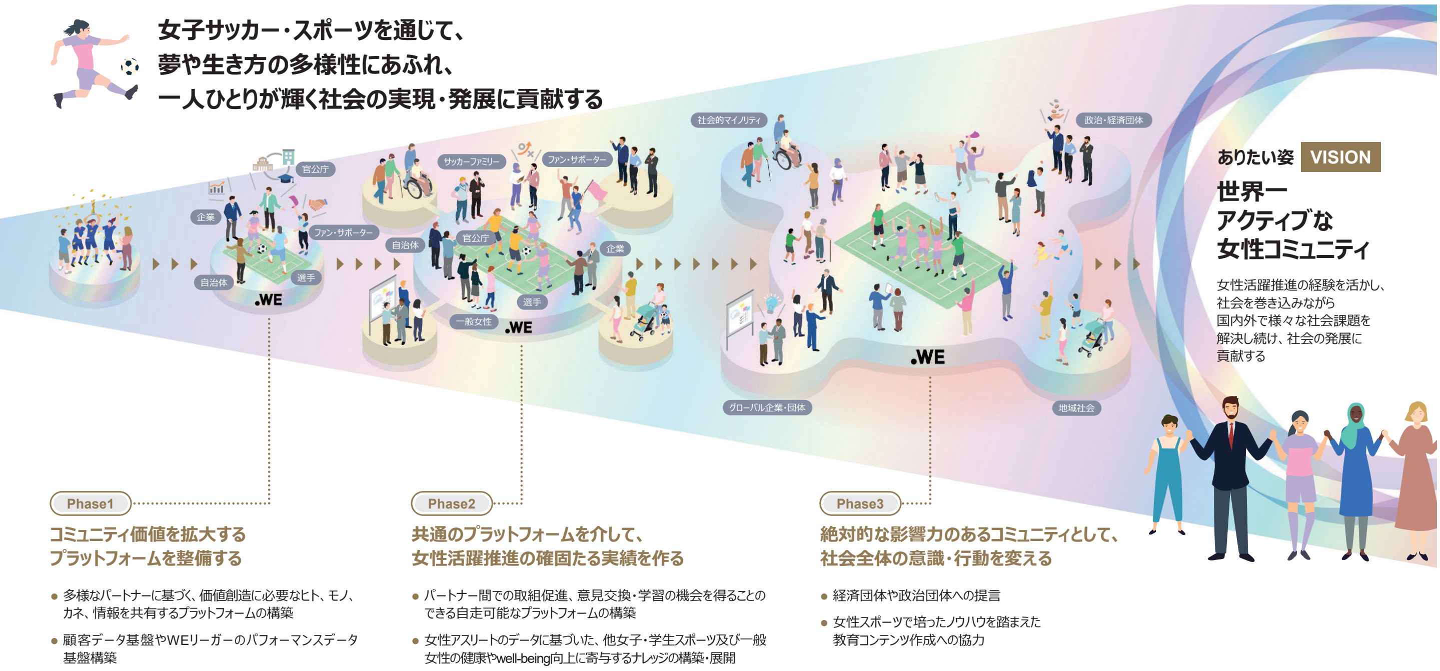
2021 年８月に、WE リーガーのクレド（行動規範）を発表しました。岡島喜久子チェアと各クラブの選手代表者 11 人が集まり、３月８日の国際女性デー／ JFA 女子サッカーデーに実施した「第１回 WEMEETING」を皮切りに、クラブ内でも議論を重ね、５カ月をかけて自分たち自身で「みんなが主人公になるためにプレーする」という言葉をクレドとして決定しました。

この言葉は、各クラブのキャプテンが 2021-22 シーズンのホーム開幕戦の選手宣誓として読み上げました。

WE リーグ公式 YouTube チャンネル
クレド開発ミーティング～クレドができるまで～
https://youtu.be/9sJso6D7jvM

.WE LEAGUE 価値創造ストーリー

WE リーグが女性活躍社会を牽引するエンジンとして、社会変革の実現に向けた活動を支援するソーシャルインパクトパートナーシップ契約を KPMG コンサルティング株式会社と締結。「世界一アクティブな女性コミュニティ」を目指し、協働していく「価値創造ストーリー」を ALL WE ACTION DAY で発表しました。



.WE LEAGUE 優勝チームに贈られる「WE リーグトロフィー」

「一人ひとりが輝く社会の実現」を目指す WE リーグは、下記のように長年続いた考え方を壊し、「未来の可能性」「エンパワーメント」を象徴するトロフィー「Women Empowerment Trophy」を製作しました。

WE リーグトロフィーは、岡島喜久子初代チェアや日本の女子サッカーを代表するさまざまな世代の選手や女性たちが、自身でぶつかってきた見えない「ガラスの壁」をサッカーボールで壊すことから製作を開始。その壊れたガラスの破片を使って女性のガラス職人／デザイナーがトロフィーを完成させました。また、クリエイティブディレクター、プロデューサー、監督、カメラマン、音楽など、すべて女性のスタッフでトロフィーのメイキング映像を作成しました。

初代チャンピオンは INAC 神戸レオネッサ、2 シーズン目の 2022-23 シーズンと 3 シーズン目の 2023-24 シーズンは三菱重工浦和レッズレディースが連覇を達成し、WE リーグトロフィーを掲げました。

© WE LEAGUE

WE リーグ公式 YouTube チャンネル
WE リーグトロフィー「ガラスの天井」を壊す
https://youtu.be/CLlsDanQgKc

.WE LEAGUE 理念推進日「WE ACTION DAY」

理念推進活動を行う「WE ACTION DAY」。クラブや地域の特性を生かしながら、リーグが大切にする理念をみんなで考え、体現するために様々な活動を行っています。2023-24 シーズンは、１クラブ１回の実施に加え、リーグ＋全クラブが同日に活動を行う「ALL WE ACTION DAY」も実施。海外でも初開催するなど、その活動は大きく広がっています。

WE リーグアウォーズでは「MOST IMPRESSIVE WE ACTION DAY」を表彰しており、2023-24 シーズンは、ノーマライゼーションの理解を深める「ブラインドサッカー＆手話体験会」を実施した大宮アルディージャ VENTUS が受賞しました。

WE リーグ公式 YouTube チャンネル
2023-24 WE ACTION DAY
https://youtu.be/S4usLQKDzFU

写真提供 WE リーグ

サッカー教室 in 延岡市九州に WE リーグを広めよう！（マイナビ仙台レディース）

レッズレディースキッズフェスタ supported by 三菱重工（三菱重工浦和レッズレディース）

ノーマライゼーションの理解を深めるブラインドサッカー＆手話体験会（大宮アルディージャ VENTUS）

育成年代の普及に貢献する「子供たちに夢や希望を」（ちふれ AS エルフェン埼玉）

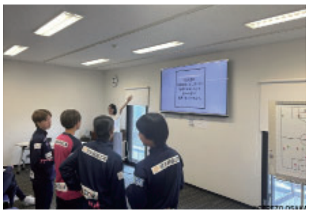
ホームタウン内の新小学１年生に定規プレゼント（ジェフユナイテッド市原・千葉レディース）

ホームタウン交流（公開練習・激励会）＆クリーン活動（日テレ・東京ヴェルディベレーザ）

児童養護施設交流や CP サッカー体験（ノジマステラ神奈川相模原）

児童養護施設の子どもたちとの国際交流イベント in タイ（AC 長野パルセイロ・レディース）

スポーツとキャリアをテーマにしたトークイベント（アルビレックス新潟レディース）


自分自身の身体を理解する「生理とスポーツについて」（セレッソ大阪ヤンマーレディース）

選手と一緒にウォーキングフットボールを楽しもう！（INAC 神戸レオネッサ）

「女性がサッカーを続ける環境」についてトークセッション（サンフレッチェ広島レジーナ）

.WE LEAGUE「ALL WE ACTION DAY」

2022-23 シーズンまでは、試合のない週に各クラブがそれぞれ実施していた「WE ACTION DAY」を、2023-24 シーズンから新たな試みとして全クラブと WE リーグが協働し、「ALL WE ACTION DAY」として実施しました。

2023-24 シーズンに行われた「ALL WE ACTION DAY」では、WE リーグが渋谷で行うトークイベントと、各クラブが行う、クラブ独自の WE ACTION DAY によって構成されました。「“MY STORY” WE リーガーを通じて、女性活躍の多様な姿を発信する」をテーマとした渋谷でのトークイベントでは、全クラブから 12 選手が参加し、約 90 名のオーディエンスを前にそれぞれのストーリーを発信しました。

第一部では、WE リーグソーシャルインパクトパートナーである KPMG コンサルティング株式会社と WE リーグが協働し、数か月かけて作り上げた「価値創造ストーリー」を発信。「価値創造ストーリー」とは、WE リーグというプロサッカーの団体が、どのようなフェーズを経て「世界一アクティブな女性コミュニティ」を生み出せ

WE ACTION DAY 一覧

クラブ名	実施日	イベント名	内容
WE リーグ	2024 年 2 月 10 日	**“MY STORY” WE リーガーを通じて、女性活躍の多様な姿を発信する**	様々なバックグラウンドを持つ WE リーガーそれぞれの“ストーリー”を語ることで、女子サッカー選手の魅力を世の中に伝える
マイナビ仙台レディース	2 月 10 日	**みんなで微笑む素敵な TIME**	キャンプ地であるタイの小学生を対象とした「サッカー教室」と、夢を持つことの大切さを伝える「トークショー」
	2 月 17 日	**サッカー教室 in 延岡市 九州に WE リーグを広めよう！**	WE リーグのない地域で、「サッカー教室」を開催し、WE リーガーとふれあう機会を作る
三菱重工浦和レッズレディース	10 月 21 日	**レッズレディースキッズフェスタ supported by 三菱重工**	地域の子どもに体を動かして遊ぶ楽しさを知ってもらうアトラクションイベント
	2 月 10 日	**「自分の未来について考える」ワークショップ**	OB 選手の経験談やディスカッションを通して「10 年後の未来を想像して自分のキャリアを考える」
大宮アルディージャ VENTUS	2 月 10 日	**VENTUS キャリアデザイントーク**	選手と育成組織の選手や地元の高校生が一緒に、キャリアに関するテーマに沿って意見交換やグループワーク
	4 月 7 日	**ブラインドサッカー＆手話体験会**	誰もがスポーツを楽しみ、応援しあうことができる！ノーマライゼーションの理解を深める
ちふれ AS エルフェン埼玉	2 月 10 日	**子どもたちの未来に夢や希望を！**	児童養護施設の子どもたちと“比べなくてもいいんだよ。みんな違っていい”をテーマとしたワークショップ
	4 月 7 日	**子供たちに夢や希望を**	企画から進行まですべて選手主導で行う、サッカーやレクリエーションを通じた選手たちと子どもたちによる交流会
ジェフ千葉レディース	2 月 10 日	**プロサッカー選手と一緒にキャリアについて考えよう　ジェフ千葉レディースキャリアワークショップ**	小中学生へ選手自身の経験談を伝え、夢や目標に向かうための将来プランを一緒に考えるワークショップ
	4 月 24 日	**新小学 1 年生定規プレゼント　小学校訪問**	「元気で楽しい学校生活を送っていただきたい」というクラブの想いを、ジェフオリジナル定規にのせて選手たちが届けに行く、伝統の取り組み
日テレ・東京ヴェルディベレーザ	11 月 1 日	**開幕に向けて！ホームタウン交流（公開練習・激励会）＆クリーン活動**	『トレーニング一般公開』『日テレ・東京ヴェルディベレーザ× Ziploc® クリーン活動』『WE リーグ開幕激励会』
	2 月 10 日	**私のライフデザイン**	サッカーとは異なる領域の職業に就く参加者と多様なライフデザインについて考える
ノジマステラ神奈川相模原	11 月 23 日	**WE ACTION MATCH**	児童養護施設の子どもたちをホームゲームに招待し、子ども虐待防止の「オレンジリボン運動」啓発グッズの配布や周知活動
	2 月 10 日	**ALL STELLA ACTION DAY**	クラブ設立以来初となる全カテゴリー選手が一緒に取り組む「目標設定」に関するワークショップ
AC 長野パルセイロ・レディース	2 月 4 日	**Enjoy ！サッカー！ in タイランド　～世界はひとつ～**	タイの児童養護施設の子どもたちを招待した国際交流イベント
	2 月 10 日	**アスリートが生きるということ～選手の強みを徹底分析～**	“自身の強み分析”についてキャリアコンサルタントによる講演と「引退後のビジョン」や「キャリア形成」を考えるワークショップ
アルビレックス新潟レディース	12 月 10 日	**「スポーツとキャリア」をテーマに学生を対象としたトークイベント**	チームを通した地域貢献、スポーツとキャリアの接点、現役選手が考えるキャリア等についてのトークイベント
	2 月 11 日	**南城市×アルビレックス新潟レディース×琉球デイゴス サッカー教室とストレッチ講座**	WE リーグのない地域でのサッカー交流とアスレティックトレーナーによる姿勢やセルフケアについてのレクチャー
セレッソ大阪ヤンマーレディース	2 月 10 日	**レッハリ・セレッソ大阪ヤンマーレディース特別未来授業 !!**	ラグビーリーグワンの『レッドハリケーンズ大阪』の 2 選手を講師に招き、小学生と一緒に「夢を持つことの大切さ」について考える
	4 月 7 日	**生理とスポーツについて**	「生理×スポーツ」の課題に対し、トップアスリートの経験や医療・教育の専門的知見をもって、自身と向き合う教育・情報発信プロジェクト
INAC 神戸レオネッサ	2 月 10 日	**集まれ！未来の WE リーガー～プロサッカー選手とともに考える私が描く夢～**	一般公募の 35 名の女子小学生と、サッカー教室と「キャリアについて考える」グループワーク
	6 月 9 日	**INAC 神戸の選手と一緒にウォーキングフットボールを楽しもう！**	運動が苦手でも、障がいがあっても、大人でも子どもでも怖がらずにプレーできるウォーキングフットボールを体験し、交流を深めるイベント
サンフレッチェ広島レジーナ	2 月 10 日	**令和 6 年能登半島地震 災害義援金募金活動**	新スタジアムこけら落としの機会を活用し、能登半島地震における被害への義援金募金活動を実施
	4 月 3 日	**サンフレッチェ広島レジーナ×広島経済大学女子サッカー部～『小中高大、社会人になっても女性がサッカーを続けるために必要な環境』を考える～**	女性がサッカーを続ける際の様々な困難について、選手や大学生それぞれの視点からのトークセッション

るのかを一枚の絵で説明したものです。同社の執行役員パートナーの佐渡誠氏と WE リーグチェア（当時）の髙田春奈が対談形式で、「コミュニティ価値を拡大するプラットフォームを整備する」、「女性活躍推進の確固たる実績を作る」などの施策について語り合いました。

また、第二部ではトークセッションが行われました。全クラブから 12 選手が参加し、「競技人生の中で経験した困難なこと」、「女性アスリートが競技を継続しやすい環境を作るために変えていきたいこと」、「今後ありたい姿と、それに向けて努力していること」などについてそれぞれのストーリーを交えて発信。MC を務めた WE リーグコミュニティオーガナイザーの海堀あゆみのコメントも交えつつ選手間でも意見を交換しました。12 選手の裏側にあるストーリーを知る貴重な機会となりました。

© WE LEAGUE

WE ACTION MEETING

WE リーグは理念の実現に向けて、クラブ・選手やリーグパートナー、メディアと連携した ACTION を実施するための会「WE ACTION MEETING」を定期的に開催しています。

2023-24 シーズンまでに計 7 回の WE ACTION MEETING を行いました。3 年目となる 2023-24 シーズンのテーマは、「女子アスリートが安心・安全に競技ができる環境を整える」1 月 23 日に、クラブ理念担当者、リーグ事務局、リーグパートナー、メディア、他競技関係者、30 名が JFA ハウスに集まり、グループに分かれてディスカッション。5 月 28 日には、選手も加わった 46 名が、オンラインで集まりました。

毎回、熱のこもった時間となる WE ACTION MEETING。女性アスリートがより輝くための施策実現に向けて、今後も活発な意見交換と議論を進めていきます。

WE ACTION MEETING 実績一覧

（）内は参加人数

● 2021-22 シーズン
ジェンダー課題の発見とリスト化。ジェンダー課題ブック作成。

第 1 回 2021 年 12 月 14 日（44）
社会および身近に感じるジェンダー課題の共有

第 2 回 2022 年 1 月 18 日（45）
選手からのジェンダー課題発表

第 3 回 2022 年 2 月 22 日（41）
それまでに出た課題に対する解決のアイデアブレスト

● 2022-23 シーズン
ジェンダー課題解決アイデアの深化と実践。

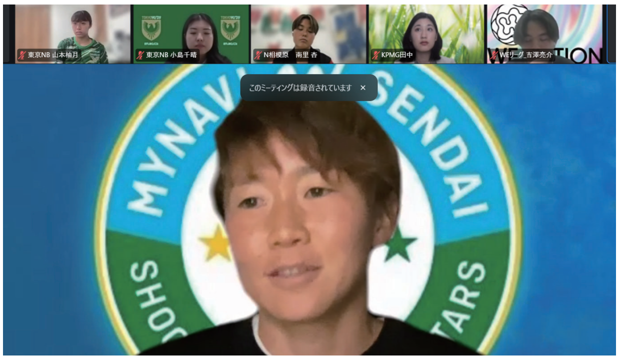
第 4 回 2023 年 2 月 20 日（43）
①母頼りが多すぎる問題
②日本の女子の自己肯定感が低すぎる問題
③女性は 10 代でスポーツやめちゃう問題
④女性コーチは約 3 割問題
4 つをピックアップし解決アクションの検討

第 5 回 2023 年 4 月 11 日（63）
第 4 回の検討をふまえ、各クラブの選手も参加し、チーム（スポーツ×パートナー×メディア）でできる解決アクションのレポート化

● 2023-24 シーズン
選手からでた課題をピックアップ。解決アクションを議論、実施。

第 6 回 2024 年 1 月 23 日（30）
女子アスリートが安心・安全に競技ができる環境を整える

第 7 回 2024 年 5 月 28 日（46）
女子アスリートが安心・安全に競技ができる環境を整える（選手参加）



© WE LEAGUE

なでしこリーグビジョン・ステートメント

なでしこリーグは、2024 年に設立 35 年を迎え、長らく日本女子サッカー界をけん引してまいりましたが、2021 年に日本女子プロサッカーリーグ（WE リーグ）が開幕し、最高峰のアマチュアリーグとなりました。
そこで、なでしこリーグでは、これまで築き上げてきた歴史を継承しつつ、これからさらに魅力的なリーグに発展させていきたい、というなでしこリーグに関わる人々の思いを象徴するビジョンとステートメントを作成いたしました。

なでしこリーグは、「普及」「地域」「多様性」をキーワードに、女性が人生の様々なステージにおいてサッカーとともに活躍できるリーグを目指していきます。

なでしこリーグ公式 YouTube チャンネル
なでしこリーグビジョン・ステートメントイメージムービー　https://youtu.be/Grd_xEE6O50

活動報告

原則 2

機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃

JFA アクセス・フォー・オール宣言

2023 年 3 月から理事会での提案によってワーキンググループを組んで検討し、2024 年 4 月に、JFA、J リーグ、WE リーグ、F リーグ、JIFF、47FA 代表者によって、共同宣言を出しました。

その後、リスペクトフェアプレーデイズのシンポジウムの第二部で扱い、そしてサッカーファミリーの中での理解を深めるべく、JFA 役職員、リーグ・連盟、そして 9 地域 47 都道府県サッカーファミリーの役員を対象としたワークショップを実施しました。今後、毎年 4 月を強化月間とし、浸透を図っていきます。

誰もがサッカーのする、見る、関わるにチャレンジできるよう、多様な機会と選択肢を持続的に確実に届けることを目指すこの宣言において、ジェンダー、女性はマイノリティの中の最大のマジョリティと言われるように、人口としては半数いる女性がもっと当たり前にアクセスできるようになることも、目指していくところです。

JFA 公式 WEB サイト
アクセス・フォー・オール宣言
https://www.jfa.jp/about_jfa/accessforall/

各組織のトップのコミットメントを得ながら、アクセスが様々に制限されている現実に気づきを持つことから始めて、サッカーファミリーの当たり前にしていく、日本のスポーツ文化を変えていくことを目指します。

アクセス・フォー・オール宣言

グラスルーツからエリートまで
誰もがサッカーの「する」「見る」「関わる」にアクセスできる
多様な「機会」と「選択肢」を持続的に確実に届けます。

上記を実現するために、

1. 日本サッカー協会は、各リーグや 9 地域 47 都道府県サッカー協会、および各種加盟団体と共に、サッカーを愛するすべての人が全国の日常でサッカーにアクセスし、サッカーを楽しみ挑戦できることをサッカーファミリーの「あたりまえ」にしていきます。

2. サッカーを通じて、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン（DEI）※を推進し、日本のスポーツ文化に変化を起こします。

※ダイバーシティ（多様性）、エクイティ（公平性）、インクルージョン（包括性、受容性）、3 つの頭文字をとって「DEI」とする。

JFA サッカーファミリーにおける女性の人数

JFA 登録者数

数字は 2024 年 3 月末時点
（　）内は 2023 年 3 月末時点

区分	種別	合計	男性	女性	女性比率
選　手	サッカー	834,423 人 (833,230 人)	782,340 人 (782,423 人)	52,083 人 (50,807 人)	(6.2%) (6.1%)
選　手	フットサル	34,128 人 (34,512 人)	30,252 人 (30,759 人)	3,876 人 (3,753 人)	(11.4%) (10.9%)
審判員	サッカー	276,735 人	261,992 人	14,743 人	(5.6%)
審判員	フットサル	21,120 人	19,763 人	1,357 人	(6.8%)
指導者	サッカー	97,446 人	93,794 人	3,652 人	(3.7%)
指導者	フットサル	2,308 人	2,199 人	109 人	(4.7%)
指導者	キッズリーダー（任意）	871 人	715 人	156 人	(17.9%)

JFA の役員・職員等における女性の人数

数字は 2024 年 12 月時点
（　）内は 2023 年 12 月時点

理事
全 15 人　(27 人)
男性　9 人 (22 人)　女性　6 人 (5 人)　40% ▲ (18.5%)

評議員
全 79 人　(79 人)
男性　76 人 (76 人)　女性　3 人 (3 人)　3.7% (3.7%)

各種委員会
女性を含む委員会　7/12　58.3% ▼ (17/21　80.9%)

委員長　12 人 (21 人)
男性　11 人 (21 人)　女性　1 人 (2 人)　8.3% (9.5%)

委員　98 人 (183 人)
男性　81 人 (154 人)　女性　17 人 (29 人)　17.3% (15.8%)

事務局員
管理職全 56 人　(62 人)
男性　46 人 (52 人)　女性　10 人 (10 人)　17.8% (16.1%)

正社員全 201 人　(204 人)
男性　125 人 (137 人)　女性　76 人 (67 人)　37.8% (32.8%)

臨時雇用職員全 52 人　(53 人)
男性　13 人 (10 人)　女性　39 人 (43 人)　75.0% (81.1%)

マッチコミッショナー
全 1,688 人 (1,557 人)
男性　1,625 人 (1,511 人)　女性　63 人 (46 人)　3.7% ▲ (3.0%)

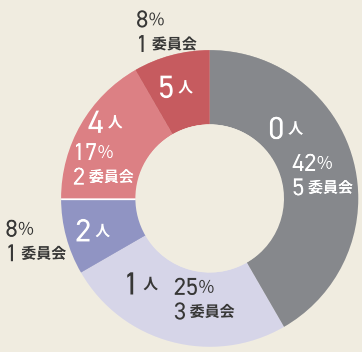
J リーグマッチコミッショナー
全 111 人　(104 人)
男性　110 人 (103 人)　女性　1 人 (1 人)　0.9% (0.9%)

WE リーグマッチコミッショナー
全 50 人　(51 人)
男性　48 人 (49 人)　女性　2 人 (2 人)　4.0% (3.9%)

なでしこリーグマッチコミッショナー
全 98 人　(89 人)
男性　90 人 (84 人)　女性　8 人 (5 人)　8.2% ▲ (5.6%)

ウェルフェアオフィサー（ジェネラル）
全 1,268 人 (1,064 人)
男性　1,095 人 (1,064 人)　女性　70 人 (53 人)　5.5% ▲ (5.0%)

12 委員会ごとの女性の人数



WE LEAGUE なでしこリーグ WE リーグ・なでしこリーグの役員・職員等における女性の人数

WE リーグ・なでしこリーグの役員・職員等における女性の人数や割合は右記の通りです。WE リーグでは、2024 年 9 月に役員改選が行われ、理事の数を 15 人から 9 人と大幅に減らしました。それに伴い、女性理事比率は、53%から 33%に減少しました。

	WE リーグ			なでしこリーグ			日本フットサルトップリーグ		
役員	総数	女性人数	女性比率	総数	女性人数	女性比率	総数	女性人数	女性比率
理事	9	3	33 %	14	10	71 %	15	5	33 %
監事	2	1	50 %	2	1	50 %	2	1	50 %

WE LEAGUE WE リーグの女性登用の見える化

WE リーグは、クラブ参入基準において、女性登用を義務付けた日本初スポーツ組織です。2019 年に、スポーツ庁が策定したスポーツ団体ガバナンスコードはありますが、罰則規定もなく、その実施は明らかになっていません。WE リーグは、右記の３点を明らかにすることにより、組織の多様性を見える化し、WE リーグ、そしてスポーツ組織の今後に生かします。

参入基準（抜粋）

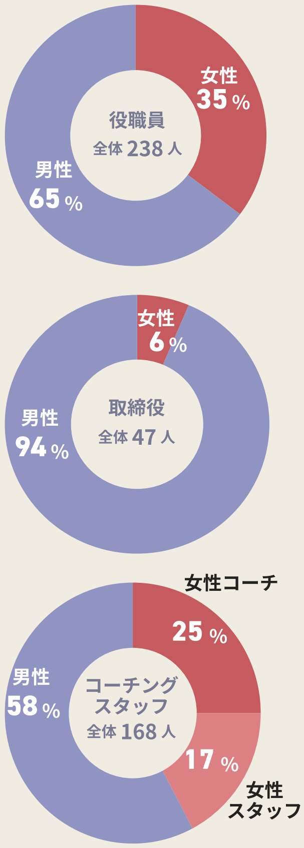
○クラブの運営にあたる法人を構成する役職員の 50%以上を女性とする（入会から３年以内に達成すること）
○クラブの意思決定に関わる者のうち、少なくとも１人は女性とすること（取締役以上が望ましい）
○コーチングスタッフ（監督またはコーチ）の中に女性指導者１人以上を含むこと

▶ WE リーグの女性登用状況（2024 年 12 月）

	役職数			取締役			チームスタッフ			
	総数	女性人数	女性比率	総数	女性人数	女性比率	総数	女性人数	うち女性コーチ	女性比率
WE リーグ	18	13	72 %	9	3	33 %				
マイナビ仙台レディース	15	8	53 %	2	0	0 %	18	8	4	44 %
三菱重工浦和レッズレディース	8	4	50 %	3	0	0 %	16	8	6	50 %
大宮アルディージャVENTUS	34	10	29 %	3	0	0 %	9	4	3	44 %
ちふれ AS エルフェン埼玉	14	6	43 %	5	0	0 %	15	7	5	47 %
ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	36	10	28 %	8	2	25 %	18	10	6	56 %
日テレ・東京ヴェルディベレーザ	15	8	53 %	2	0	0 %	13	2	1	15 %
ノジマステラ神奈川相模原	10	4	40 %	3	1	33 %	14	8	7	57 %
AC 長野パルセイロ・レディース	23	7	30 %	8	1	13 %	10	3	2	30 %
アルビレックス新潟レディース	11	5	45 %	5	1	20 %	11	6	2	55 %
セレッソ大阪ヤンマーレディース	13	8	62 %	6	0	0 %	13	7	2	54 %
INAC 神戸レオネッサ	11	5	56 %	4	0	0 %	18	3	2	17 %
サンフレッチェ広島レジーナ	50	9	18 %	5	0	0 %	13	5	2	38 %
12 クラブ合計	238	84	35 %	54	5	9 %	168	71	42	42 %

※女性スタッフには、指導者以外のトレーナー、主務を含む　※女性コーチとは、JFA コーチングライセンスを持っている女性指導者　※カテゴリーを兼務している場合は、主に関わっているカテゴリー、または上位のカテゴリーで換算※役職員の数に、非常勤の取締役、監事および現場スタッフは含まない　※強化担当者、アカデミーダイレクターは役職員に含む

▶ 組織内における女性の割合（2024 年 12 月）



WE STATEMENT 2024

WE リーグの各クラブは、理念の実現に向けたクラブの指針を示す「WE STATEMENT」を発表しており、必要に応じて毎年更新しています。

WE リーグ公式 WEB サイト
WE STATEMENT
https://weleague.jp/weaction/2/#club

マイナビ仙台 レディース

マイナビ仙台レディースは、地域における存在価値を高め、更に愛されるクラブとなるため、在仙プロスポーツチームと連携しながら、より一層仙台、宮城、東北を盛り上げる存在を目指します。

三菱重工浦和レッズ レディース

私たちは、理念実現のために、世界水準のサッカーを目指し、誰もが誇りと親しみを持つことができ、健全で持続可能なクラブを築いていきます。

大宮アルディージャ VENTUS

大宮アルディージャ VENTUS は、理念実現のために、地域とともに、新たな"風"を起こします。「新たな風」は常に新しい風を起こすことを意味します。チーム設立初年度だけでなく、地域のために、子どもたちのために、常に新しい発想を持ってチャレンジし続けます。

ちふれ AS エルフェン埼玉

ちふれ AS エルフェン埼玉は、理念実現のために、子ども達の未来へ、地球環境の未来へ、女子サッカーの未来へ、さまざまな可能性を未来へつなげる活動を積極的に行います。

ジェフユナイテッド 市原・千葉レディース

ジェフ千葉レディースは、理念実現のために、真摯・挑戦・つなぐ・クラブと地域・ダイバーシティ・育成・感動の７つのジェフスピリッツを実践します。

日テレ・東京ヴェルディ ベレーザ

私たち日テレ・東京ベレーザは、WE リーグ理念実現のために、ホームタウンを中心としたエリアで愛されるクラブになれるよう、地域の活性化と発展に貢献します。

ノジマステラ 神奈川相模原

ノジマステラ神奈川相模原は、WE リーグ理念実現のため、地元地域の星（チーム名由来）となり、性別や年代に関係なく、一人ひとりが輝ける社会、の実現を多様性ある神奈川から発信し、「日本一、輝く」クラブを目指します。

AC 長野パルセイロ・ レディース

AC 長野パルセイロ・レディースは、WE リーグ理念実現のために、多様性を理解し、みんなが輝ける NAGANO の未来実現のため行動します。理念推進のため、選手が中心となって地域に働きかける活動をします。チームスタッフは女性を中心に採用し、人材教育にも力を入れます。

アルビレックス新潟 レディース

私たち アルビレックス新潟レディースは、理念実現のために、ピッチの内外を問わず活躍できる人財となり、魅力あふれる新潟づくりに貢献します。ヒト、まち、モノ、文化・伝統・芸能、食、観光、気候など "新潟という地域社会そのもの" をより一層活性させて、輝ける存在になることを約束します。

セレッソ大阪 ヤンマーレディース

私たちセレッソ大阪ヤンマーレディースは、サッカーを核とする事業を展開し、夢・希望・感動にあふれた スポーツ文化の振興と地域社会の発展に貢献します。

INAC 神戸 レオネッサ

INAC 神戸は、「For The Future」をスローガンとして、日本女子サッカーの発展のためにサッカーを通じて少女たちに夢と希望を与えられる存在となり、WE リーガークレドの実現を目指します。

サンフレッチェ広島 レジーナ

私たちサンフレッチェ広島レジーナは、理念実現のために男子チーム、女子チーム両方持っているクラブとして男女関係なく、お互いを RESPECT し、各々がサッカーを通じて地域の皆様と共にサッカー発展に携わる人材を増やしていきます。

WE MEETING

WE リーグは、2021 年の開幕前から、リーグの役員と選手全員が出席する WE MEETING を各クラブと開催しています。リーグの理念を共有し、相互理解を深めて信頼関係を築き、リーグとしての一体感を醸成することを目的としています。2023-24 シーズンは、2 クラブ対面で行うことができました。内容は、年間のテクニカルデータをまとめた WE リーグのフットボールと世界のトレンド、髙田チェア（当時）から WE リーグの理念と直近の取組みを伝え、その後、WE リーグ初年度に選手で作ったクレドについてのディスカッションを行いました。

© WE LEAGUE

© WE LEAGUE

WE リーグ公式 Web サイト
2024 WE MEETING レポート
https://weleague.jp/news/1386/

JFA 女性指導者について

● 概要

2024 年 12 月時点で、女性指導者は全体の 3.8％です（次ページ表参照）。

女性指導者については、女性選手の増加を追う形で進むものと考えますが、いずれにせよ大変少ない状態であり、積極的な改善が必要です。FIFA や UEFA、そして AFC でも、重要なトピックとして様々な積極的な施策がとられています。

指導者養成は本来、男女関係なく行われるものであり、女性をことさらにとり出して取り組むことには議論がありました。しかし、長年にわたり自然にやってきた結果が、今の状態であることを考えると、一定期間は特別な対応をして変化の土台をつくる必要があります。

女性指導者が少ない理由の一つとして、ロールモデル不足が挙げられます。現状までの女子の選手たちは、子どもの頃からの選手経験の中で女性に指導される経験が少なく、そのために将来自分自身が指導を行うイメージを持っていないことが多くあります。また、数が少なすぎることで際立ってしまい、個々の特長は異なるのに一般化されがちでもあります。

女子サッカーの普及を進める上でも、女性指導者の存在は重要であると考えます。特に低年齢では、女子だけのチームももちろんありますが、男子に混ざってプレーをする機会が多くあります。その多くは、大勢の男子の中に少しの女子が混ざって頑張る状況です。

そのようなときに、指導スタッフに女性もいれば、子どもたちにとっては非常に心強く、参加のハードルが下がります。また、保護者の皆さんにとっても安心だと思います。遠征や宿泊を伴う活動ではなおさらです。特にキッズや U-12 年代の活動現場には、女性指導者がいる状態をつくり、普及を進めていきたいと考えています。女性指導者を増やすこと、現場への配置を進めることに合わせて取り組んでいます。

● 女性の受講促進のために女性コースの設定

女性指導者がより指導者養成コースを受講しやすいように、女性を対象としたライセンスコースの設定を行っています。（次ページ表参照）

女性だけでライセンスコースを行うことに対して、当初はレベルの低下やニーズの有無、経験不足等を懸念する声もありましたが、実際に情熱を持って受講し、吸収し成長する受講者に触れるにつけ、その先入観は一掃されています。男子と一緒に受講するメリットももちろんあり、それは選択肢としてありつつ、機会を増やすこと、受講しやすさを高めることに取り組んでいます。各都道府県サッカー協会（FA）でも、女性コースの設定や、受講を促す声掛け、現場への導入など、さまざまな取り組みをしていただいています。

2024 年度女性対象ライセンスコース一覧

B 級	JFA	D 級	宮城 FA 茨城 FA 群馬 FA 神奈川 FA 富山 FA 静岡 FA 三重 FA 岐阜 FA 福岡 FA 宮崎 FA
C 級	JFA 女子学連 WE クラブ 大阪 FA 千葉 FA 岡山 FA 宮崎 FA 鹿児島 FA		

振興プロジェクト

※ JFA 技術委員会と連携して 2020 年から実施

女性を対象にした指導者養成コース

APro ライセンス	2020 年から実施
A 級ライセンス	2021 年から実施
B 級ライセンス	2018 年から実施
C 級ライセンス	2017 年から実施

※ JFA、47FA、WE クラブ、女子学連

D 級ライセンス	2017 年から実施

※なでしこリーグ新人研修、JFA、47FA、女子学連

指導者登録者数

表中の（　）内は前年の数

サッカー

	全登録：人	女性：人	女性比率
S 級	566	22(18)	3.9%
A 級ジェネラル	2,222	74(71)	3.3%
A 級 U-15	210	3(3)	1.4%
A 級 U-12	399	3(4)	0.8%
B 級	8,302	315(274)	3.8%
C 級	29,672	1,450(1,490)	4.9%
D 級	55,204	1,629(1,332)	3.0%
キッズリーダー（任意）	871	156(154)	17.9%
合計	**97,446**	**3,652(3,346)**	**3.7%**
（参考）　前年合計	93,078	3,346	3.6%

サッカー（GK）

	全登録：人	女性：人	女性比率
GK レベル 3	271	5(5)	1.8%
GK レベル 2	384	6(6)	1.6%
GK レベル 1	2752	82(75)	3.0%
合計	**3407**	**93(86)**	**2.7%**
（参考）　前年合計	3,134	86	3.7%

フットサル

	全登録：人	女性：人	女性比率
フットサル　A 級	61	2(2)	3.3%
フットサル　B 級	235	8(5)	3.4%
フットサル　C 級	2,012	99(96)	4.9%
合計	**2,308**	**109(103)**	**4.7%**
（参考）　前年合計	2,221	103	4.6%

サッカー・フットサル合計	**99,754**	**3,761**	**3.8%**
（参考）　前年合計	95.299	3.449	3.6%

A-Pro ライセンス

JFA 技術委員会との連携で「女子サッカー振興プロジェクト」の一環として、女性指導者を対象に、AFC-Pro 基準の新たなライセンスとして「Associate-Pro（A-Pro）ライセンス」を 2020 年より時限的に開設しました。保有者は WE リーグでの指揮が可能です。2024 年 12 月現在、A-Pro ライセンス取得者 13 名の中から 11 人が S 級コンバージョンコースを修了し、S 級ライセンスを取得しました。これにより、S級取得者が 22 人となりました。

JFA 公式 Web サイト
https://www.jfa.jp/women/associate_pro/

JFA/AFC 女性プロディプロマコース

先述のとおり、女性指導者養成は、世界中で重要なトピックとされ、取り組まれています。全体の人数を増やすことと同時に、上位級の指導者の養成も重要視され、コースの中での女性枠の設定、上位ライセンス受講の際のスカラシップの設定等、様々な取り組みがなされています。

日本ばかりでなく、アジア全体で、女性指導者がプロライセンスの講習会にアクセスするのは簡単なことではありません。AFC 女子チャンピオンズリーグ開始に際し、それを解消するためのポジティブアクションとして、今回 AFC との連携のもと、JFA にて女性プロディプロマコースを開催するに至りました。日本からの参加者 7 人を含め、14 か国から 20 名の指導者が参加して 10 月より開始しています。

指導者養成全体で検討が進んでいることですが、参加者がより参加しやすいように、集合研修を短くし、間の学習をメンタリングによって実施することで、よりリアリティをベースとした、すなわち自分の通常の指導現場での指導をベースにし、そこにメンターが訪問する形で指導実践を重ねる方式を採用しています。

開設の目的

日本女子サッカーの継続的な発展に向けて

1．女子 / 女性のサッカー競技人口の増加

- プレー機会減少によるサッカー離れを生み出さないため、女子委員会が行う普及施策を" ALL JFA"として取り組む
- 女子 / 女性が継続的にサッカーを楽しむことができる環境を整備し、サッカーを長く楽しみ、応援してくれる女子 / 女性を増やす

＋

2．次世代を引っ張るリーダーの育成

- WE リーグ立ち上げで監督になり得るだけでなく、後進指導者たちを育て導いていくロールモデルの育成
- インターナショナルな分野でも活躍できる人材の育成

新たな施策に着手

女性指導者育成の突破口として S 級に準ずるライセンス「Associate-Pro（A-Pro）ライセンス」を“時限的”に創出

女子サッカーのみならず、日本サッカー全体の継続的な発展へ

チューターコメント

AFC　副テクニカルダイレクター　小野剛さん

日本に限らずアジアの中には優れた才能を持ちながらも Pro-Diploma Course への参加がままならない女性コーチ達がいます。 そのようなコーチ達に機会を与えようと､2年前から AFC と JFA は協議を続け、パイロットプロジェクトとして立ち上げに至ることができたのが今回のコースです。

14 ヶ国から集まった 20 名の受講生とともに始まった第 1 モジュールは、覚悟を持って臨んだ受講生達の取り組みで、本当に素晴らしい形でスタートできたと思っています。 すべてが英語で行われるこのコースは苦労も多かったと思いますが、一つひとつの課題に必死になってコミュニケーションを取り、情熱を持ち、仲間と協力し合って取り組む彼女達の目の輝きは、日本の、そしてアジアの新しい未来を感じさせてくれるものでした。

また、影山技術委員長はじめ JFA のエキスパートに加え、ASE 教育の第一人者坂本昭裕教授、FIFA/AFC のメディカル部門で活躍している土肥美智子ドクター、素晴らしい経験をシェアしてくれた元ポルトガル代表ストライカーの Nuno Gomes 氏 (FIFA)、元 USA 女子代表ワールドカップ優勝キャプテンの April Heinrichs さん (FIFA)、元 U17 スイス代表監督で世界の頂点に立った Dany Ryser 氏、元なでしこジャパン監督の池田太氏、AFC 指導者養成の Wim Koevermans 氏と、素晴らしいゲストたちもこのコースに様々な角度からのインサイトを提供してくれました。

今後も強い絆で成長していってくれるであろう熱いハートを持った各国からの受講生、そして最高のホスピタリティでこのコースを支えてくださった JFA のスタッフの方々に、AFC を代表して感謝したいと思います。

受講者コメント

スフィーダ世田谷 FC　川嶋珠生さん

緊張感があるなか初日を迎えましたが、14 ヶ国から集まった女性指導者達の強い覚悟と眼差しに刺激を受け、充実した日々を過ごすことができました。スペシャルセッションでは FIFA や代表チームで活躍されていたゲストの方から指導者や選手育成のリアルな声と情熱をうかがい、志や糧となる貴重な時間だったと振り返っています。

指導実践ではスタッフワークの実践と難しさを体感し、改めてトレーニング構築（ゲームからの逆算）に対する計画と構成が目的や内容に即しているのかを、受講生やチューターよりアドバイスしてもらえる素晴らしい環境に、ただただ感動していました。中間時には筑波大学野性の森でチームワークを深め、受講生は言葉の壁を超えて絆を深めています。

これから第 2 モジュールに向けて、英語のスキルアップとゲームモデルのブラッシュアップを課題に、間の学習を通じて臨みたいと思います。改めて、指導実践にご協力頂きました、クラブ・大学の選手の皆さん、関係者の皆様有難うございました。

JFA/AFC 女性プロディプロマコース　―　受講生の紹介

桑原 由恵 さん

JFA コーチ女子・関東担当　横須賀シーガルズ女子の代表
神奈川 FA C/D 級チューター

JFA コーチ女子・関東担当、横須賀シーガルズ女子の代表、神奈川 FA C/D 級チューターも務める桑原由恵さんは、2024 年 6 月の出産前に FIFA コーチエデュケーター研修、6 月 19 日に女の子を出産、そして出産後は育児をしながら 10 月から AFC/JFA プロディプロマにもチャレンジされています。出産を控えていると…育児があると…無理なのではないかと､心配や親切心もこめて周囲が考えてしまいがちなところ､仕事やスキルアップの機会を常に求め、様々なチャレンジを続けています。その想いをうかがいました。

まず、私は仕事が好きでどんな状況でも仕事には関わっていたいというところがありました。そして、女性の妊娠・出産・育児がある状況でも仕事のキャリアアップの機会はストップさせたくないという想いもありました。母子ともに順調でしたし、クラブの仕事もそれこそ出産前日や当日にも事務連絡を送っていたくらいです。

横須賀シーガルズ ✕ 女性

横須賀シーガルズは、女性が一生涯サッカーができるクラブと掲げています。私が横須賀シーガルズで選手の頃から女性にリスペクトが多い指導者の方々がクラブの運営に関わってくださっていました。前代表山本絵美さんは、WE リーグが発足するタイミングでちふれ AS エルフェン埼玉でプレーすることとなり、そこを引き継ぐ形で私が代表になりました。WE リーグで掲げているように、役員に女性がいることは大切なことだと思っています。日本は役員・政治家など女性が少なく、グローバルジェンダーギャップ指数も先進 7 カ国の中で常に最下位です。まずは小さな組織、限られた集団かもしれませんが、女性が権限を持っていくことが大切だと思っています。私自身「自分でなければいけない」とは思わないのですが、物事を中心になって進めたり決めたりする立場は好きなので、そういう機会があれば入っていくようにしています。これからの社会ではそういう立場に女性は入っていくべきだと思っているので､「あの人がやっているなら私もやれるかな？」と思ってぜひチャレンジしてもらいたいです。

また、横須賀シーガルズで中学・高校と 6 年間一緒にプレーして今も女子サッカーに関わっている 2 人の存在は大きいです。一人が久野吹雪さん、ノジマステラ神奈川相模原の守護神として第一線でプレーしています。私が一緒にプレーしていた同学年では最後の現役選手となっているのですが、WE リーグで活躍しているのは頭が下がります。もう一人は大滝麻未さん、今 WE リーグの理事もしていますが、選手時代からどんどん世界に出て､道を広げている人です｡女性やキャリアについても危機感と必要性を感じてなでしこケアを立ち上げるなど、そのバイタリティにいつも刺激を受けます。

女子サッカー ✕ 妊娠・出産・育児

女子サッカーに関わる女性が結婚・妊娠・出産・育児のライフステージを共に進めていけるようにハード面は早く環境が変わっていき、ソフト面は徐々にだと思うのですが、周り (男性も女性も) の理解も深まってほしいです。そのためには、まずは当事者の話しを聞いてほしい、そして女性がしっかり主張

することが大事だと思います。そうすることで点と点を繋げられる線のサポートや人が現れるかもしれません。今は過渡期でやはり環境が整うまでは葛藤や悔しさもあると思います。私も妊娠・出産・育児の中で仕事をする難しさをたくさん感じ、ポロッと言われる本音に悔しく思うこともありました。そんな時に支えになったのが女性リーダーシッププログラムも受講されたニッパツ横浜 FC シーガルズの GM である斉藤織恵さんです。実は横須賀シーガルズに 2 月に出産したスタッフがいてそのスタッフの妊娠中に斉藤さんに産休・育休のことを相談しました。斉藤さんが、それは女子サッカー全体でどうにかしなきゃいけないと感じていただき、特に契約に関していろいろな方に話をしていただきました。FIFA の規程も検討されていると聞きました。まずはハード面の環境を早く整えてほしいです。

もう一つ大事なのが家庭です。女子サッカー×妊娠・出産・育児を共に進めていく上では、家族の理解が必要になります。元々私の旦那や家族は、私の仕事の関わりを理解してもらっていたので、仕事を続けるということに周りは違和感がなく、育児に関してできることは全面的にサポートしてもらえています。

ただ私のように全面的なサポートが必須条件になると、女子サッカー×妊娠・出産・育児を共に進めていける人は増えていきにくいと思います。私たちのクラブは育成年代で練習は夕方から夜、そして週末は活動があるのが日常です。夜の時間帯・休日でも負担なく預けられる場所があると働きながら指導ができると思います。そういうところをサッカー界に限らず徐々に社会的にカバーしてほしいと思います。

女性 × キャリア

プロディプロマコースでは、日本人の仲間もそうですがアジアの各国で第一線で活躍する人達との学びは本当にすごく刺激的です。講習の内容もですが、彼女達と課題に取り組みながら一緒に過ごし、新しい仲間が増え世界が広がりました。ただ英語には苦労していて、もっと理解できたら伝えられたらもっと楽しなると思います。育児している中でなかなか思うように時間がとれないジレンマがありますが、次のモジュールまでに向上できるように頑張ります。

ここまで私は常に学び、質の高い指導を提供したいと思って進んできました。C 級、B 級、A 級 U15 を取得し、女性 A 級ジェネラル、今はプロディプロマを受講中です。その都度タイミングよく学ぶ機会に恵まれました。男性と一緒にやる通常のコースと女性限定ではどちらにも良さがあります。私自身は女性指導者達との学びに大いに刺激を受けています。

他の女性と話していて感じることは、機会はあってもチャレンジする一歩を踏み出すのを自分でハードル上げてしまっている女性は多いなと感じています。私は、良くも悪くもどんどん踏み出す方です。そうすることでキャリアアップにも繋がり、私にたくさんの機会と学びをくれるメンターに出会うことができます。

どんどん他の女性指導者や選手も、スキルアップ、キャリアアップも含め、妊娠出産というところは人それぞれの生活スタイルになるかもしれませんが、ぜひチャレンジしていただきたいです。

● 女性監督メンタリング制度

女性指導者の積極養成・サポートは、世界のサッカー界で取り組まれています。日本でも、WE リーグ、なでしこリーグにて女性監督が活躍する場ができてきていますが、プロあるいはそれに準ずる環境でチームを預かる事例や経験が豊富でなく、多岐にわたる課題に対して力が発揮できにくい状況にあります。今回、監督という役割に特化し、サポートするため、FIFA やヨーロッパサッカー連盟（UEFA）での取り組みも参考に、本人の希望があった場合に、経験者に相談することができる体制を整備して開始しました。

● WE リーグ C 級ライセンス研修

女性指導者養成およびサッカー理解を深めるために、WE リーグのプロ契約選手はＣ級ライセンスの取得が求められています。クラブ毎に講習会が行われ、全クラブが終了し、これまでに 12 クラブ 203 人の WE リーガーがＣ級ライセンスを取得しました。講習会を受け、今までと違った視点でサッカーを見るようになり、将来は指導者になりたいと考えるようになり、中には、より高い指導者ライセンスを目指す選手も出てきました。現役 WE リーガーの B 級取得者は４名、A 級取得見込が１名。ちふれ AS エルフェン埼玉の山本絵美コーチは、WE リーグを経験した選手としては初めての WE クラブトップカテゴリーの指導者となっています。

© WE LEAGUE

● 上位ライセンスに向けたスキルアップ研修

上位ライセンスへのチャレンジを促すべく、2016 年から女性指導者スキルアップ研修会を実施しています。

特に上位ライセンスにチャレンジするためのトライアル指導実践に自信を持って臨めることを目指し、指導実践を中心に研修しています。

スキルアップ研修 A トライアル 2023-2024

● 第 1回目
2024 年 1 月 13,14 日
7 名参加

● 第 2回目
2024 年 2 月 3,4 日
8 名参加

スキルアップ研修時女性監督メンタリング実施実績

	人数	回数	
B 級	4 人	7 回	1 人あたり 1 〜 2 回実施
C 級	5 人	7 回	

● 47FA 女性チューターの追加２枠の設定

Ｃ級・Ｄ級の女性チューター（旧インストラクター）は、2019 年以前で 550 人中８人（1.5%）しかいませんでした。女性指導者の養成を積極的に進める人材として、47FA のチューターに、各２枠の女性チューター枠を設定しました。2024 年 12 月現在、Ｃ級・Ｄ級の女性チューターは、全チューター 616 人中 43 人（7.0%）となっています。

今後の 47FA 女性チューター数の目標は 100 人です。女性チューターが今後経験を積み、上位ライセンスのチューターになることも期待されます。指導者養成の重要なパートを占める人材となってもらうための準備です。

2024 年度 女性チューター数

	全体総数：人		女性比率
	全登録	女性	
B ライセンスチューター	171	5	2.9%
CD ライセンスチューター	616	43	7.0%
CD ライセンスアドバイザー	36	3	8.3%

● 今後に向けて

多くの女性にとってはなかなか指導を自分事としてイメージしにくく、受講者が集まりにくい状況があり、「ニーズがないのでは」と言われることもあります。しかし、現在活躍している女性指導者の多くは、恩師や周囲の指導者に声を掛けられ、励まされ、背中を押されて取り組み始めたケースです。ぜひ周囲の指導者の皆さんのご協力をお願いします。

また、今後の課題として、ライセンスの失効・退会を減らしていくことも大きなテーマです。失効・退会が多いことは女性に限ったことではありませんが、ぜひ指導を長く続けてもらえるように、出産・育児などで一時的に離れてもまた再開してもらえるように、制度等を検討していきます。

女性監督・コーチ

JFA ナショナルコーチングスタッフ	3
WE リーグ 2023/24 シーズン監督	1
なでしこリーグ 2023 シーズン監督	5
F リーグディビジョン 1 監督・コーチ	1
日本女子フットサルリーグ監督・コーチ	0
JFA コーチ女子担当	13

47FA における女性技術委員長

岡山県 FA	1FA/47FA（2.1%）

47FA における女子ユースダイレクター

北海道 FA・静岡県 FA	2FA/47FA（4.3%）

全日本大学女子サッカー連盟 ※ 2024 年 12 月時点

チーム数	84	北海道 2 大学、東北 3 大学、関東 34 大学、北信越 5 大学、東海 7 大学、関西 17 大学、中国 5 大学、四国 2 大学、九州 9 大学
登録者数	2,186	北海道・東北 114 名、関東 1 113 名、北信越 99 名、東海 155 名、関西 429 名、中国 80 名、四国 49 名、九州 147 名
監督内訳	女性 18（22%）男性 64（監督不在 2 チーム）	

女子学連指導者ライセンス取得者数

D 級ライセンス	10
C 級ライセンス	130
KG-C 級ライセンス	2
フィジカル C 級ライセンス	1
2023 年度指導者講習会参加者	14

女子学連出身選手数

WE リーグ	112 ※ 2024 年 11 月時点調べ（特別指定選手及び内定者も含む）
なでしこリーグ	1 部　112　2 部　162　※ 2023 年度シーズン

JFA 国際的に活躍する女性指導者

指導者ライセンスの上位ライセンスを取得したり、JFA 公認指導者の海外派遣を活用したりして、各国の代表チームを率いるなど国際的に活躍する女性指導者もいます。

本田美登里
2022 ～ 2024 年　ウズベキスタン女子代表監督

2024 パリ五輪予選では、セカンドラウンドでなでしこジャパンと同グループになり対戦。ベスト 4 に進出し、最終ラウンドに進出しました。

鈴木木乃実
2023 ～ 2024 年　U-20/U-17 北マリアナ諸島代表監督

U-17・U-20 北マリアナ諸島代表監督に加え、北マリアナ諸島サッカー協会で技術委員長を務めていた三田智輝さんの後任の決定・就任までの期間、技術委員長代理という立場でも活動。AFC U20 アジアカップ（男子）には大会初の女性監督として参加しました。

豊田奈夕葉
2023 ～ 2024 年　ラオス女子代表監督

2024 年のラオス女子代表は、ASEAN サッカー連盟女子選手権やフレンドリーマッチ等の国際試合を通じて貴重な経験を積み、選手やコーチにとって貴重な財産となりました。

© UFA　©2024 AFC　©LFF

JFA 女性審判員について

● 審判員登録数

2023 年 11 月 1 日時点で、女性審判員登録数は右表の通りです。

	全登録	女性
サッカー審判員	276,735	14,743
フットサル審判員	21,120	1,357
サッカー審判インストラクター	2,977	136
フットサル審判インストラクター	576	30
合計	**301,408**	**16,266**

※ 女性の割合は 5.4%

[全日本大学女子連盟との協働]

全日本大学女子サッカー連盟との協働企画として「審判員スキルアップ研修会」を開催しました。全日本大学女子サッカー連盟より加盟大学サッカー部に募集をかけ、この研修会に興味を持った審判資格（４級〜２級）を保有している８人、JFA より派遣された審判インストラクター２人が各プログラムを進行しました。この研修会の目的でもある「サッカーへの関わり方は選手や指導者だけではなく、他にも選択肢があることを知ってもらうこと。そして、生涯にわたりサッカーを楽しめるような仲間の拡大」は達成することができました。今後も連盟と協力しながらサッカーに関わる人材の育成に取り組みます。

▶ **女子学連審判登録者数**

2 級	**6** 人	3 級	**142** 人	4 級	**1,070** 人

[2 級審判員の登用]

全国大会に各地域から推薦された 2 級の女子審判員を登用することで活躍の場を提供し、JFA から派遣された 1 級審判インストラクターの指導を受けることで育成しています。また、パフォーマンスの良かった審判員に更なる活躍の場を提供することで強化を図っています。2024 シーズンは 9 名の審判員が年間を通じてなでしこリーグ（2 部）の主審を担当しました。

● 活躍する女性審判員

WE リーグを担当する審判員は、国内トップの女子審判員です。なでしこリーグの主審を担当する審判員も同じく国内トップの女子審判員になります。また、Ｊリーグでは主審 1 人（山下良美）、副審 2 人（坊薗真琴、手代木直美）が担当しています。サッカー国際審判員（女子）は、主審 4 人、副審 4 人、フットサル 3 人が登録されています。

[AFC U23 アジアカップ カタール 2024]

山下良美主審、坊薗真琴副審、手代木直美副審がアジアカップで初めて男子の試合を担当したトリオとなりました。

男子：グループリーグ　U-23 エジプト vs U-23 ドミニカ共和国
女子：グループリーグ　ザンビア vs ドイツ

[パリオリンピック 2024]

山下良美主審、坊薗真琴副審、手代木直美副審がオリンピックで初めて男子の試合を担当したトリオとなりました。

グループリーグ　オーストラリア vs インド

[FIFA U-17 女子ワールドカップ ドミニカ共和国 2024]

小泉朝香主審が 4 試合を担当しました。

グループリーグ　スペイン vs アメリカ
　　　　　　　　ドミニカ共和国 vs ニュージーランド
準々決勝　ナイジェリア vs アメリカ
準決勝　スペイン vs イングランド

[AFC U20 女子アジアカップ ウズベキスタン 2024]

小泉朝香主審が 3 位決定戦を担当しました。

3 位決定戦　オーストラリア vs 韓国

[AFC U17 女子アジアカップ インドネシア 2024]

杉野杏紗主審が 3 位決定戦を担当しました。

3 位決定戦　韓国 vs 中国

©AFC

JFA 障がい者サッカーでの女子日本代表活動

障がい者サッカー各種目において、女子日本代表が国際大会・試合で活躍しています。また、国内でも様々な普及活動が行われています。

国際大会の実績

CP サッカー女子日本代表	2024 IFCPF CP サッカー 女子ワールドカップ	11 月 13 日～ 11 月 19 日 スペイン・サロウ	4 位
ブラインドサッカー女子日本代表	さいたま市ノーマライゼーションカップ 2024（親善試合）	2 月 17 日 日本（埼玉県）	日本 1-0 インド
デフフットサル女子日本代表	第 20 回冬季デフリンピック競技大会	3 月 2 日～ 3 月 12 日 トルコ・エルズルム	5 位

国内普及活動

日本アンプティサッカー協会	AMPUTEE FOOTBALL GIRL' S -Challenge Camp- 2024（アンプティサッカー体験会・練習会／レディースキャンプ）	8 月 24 日　J-SOCIETY FOOTBALL PARK 多摩（東京都） 9 月 28 日　新富町フットボールセンター（宮崎県） 11 月 17 日 奥戸総合スポーツセンター（東京都） 12 月 14 日 KOBE UNIVERSITY SPORTS FIELD Supported by MIZUNO（兵庫県）
日本ソーシャルフットボール協会	女子普及活動（協会公認活動）：ソーシャルフットボール女性チーム DREAM	8 月 13 日　交流会（愛知県） 9 月 16 日　女性選手向けソーシャルフットボールクリニック（大阪府）
日本知的障がい者サッカー連盟	知的障がい者女子サッカーナショナルトレセン	11 月 9 日 ,10 日（神奈川県）
日本ブラインドサッカー協会	ブラインドサッカー女子練習会	9 月 16 日　豊洲 10 月 20 日　豊洲 11 月 24 日　MARUI ブラサカ！パーク

©JDFA

©JDFA

©JCPFA

WE LEAGUE あらゆる場面での女性の活躍

WE リーグでは、審判員やスタッフ、また意思決定者の女性登用を推進するだけでなく、試合に関するあらゆる場所での女性の配置を推進しています。実況や解説、中継のディレクター、カメラマンなど、これまで女性があまり関わることの少なかったポジションで、女性が活躍しています。

原則3

健康、安全、暴力の撤廃

JFA ウェルフェアオフィサー制度

ウェルフェアオフィサー制度はサッカー全体に関わるものですが、特に、女子サッカーに関わる各リーグ・連盟で、リスペクト、セーフガーディングにより積極的に取り組んでいくべく検討しています。リスペクトとフェアプレーの精神あふれる環境を醸成し、好ましくない行動や状況においても、気づきを伝え合うことで、" ウェルフェア " 環境が守られることを実践しています。

JFA コーチ女子担当は、2021 年の研修会でウェルフェアオフィサージェネラル養成講習会を受講し、2023 年に新規養成・更新をしました。なでしこリーグは、2023 年度より全チームにクラブ・ウェルフェアオフィサーの設置を義務付けました。全日本大学女子サッカー連盟では、全日本大学女子サッカー選手権大会（インカレ）において、学生によるマッチ・ウェルフェアオフィサーを試行しました。

JFA 公式 Web サイト
リスペクト・フェアプレー
https://www.jfa.jp/respect/

JFA | .WE LEAGUE リスペクト・フェアプレー

FIFA 女子ワールドカップオーストラリア＆ニュージーランド 2023 において、なでしこジャパンはリスペクトあふれる行動で話題となり、またフェアプレー賞を受賞しました。代表チームに象徴されるように、リスペクト・フェアプレーは、世界から一目置かれる日本サッカーの重要な価値であり、守り抜いていきたいものです。

2024 年 9 月の JFA リスペクト・フェアプレーデイズにおいては、各リーグでリスペクト宣言、リスペクトバナー掲出、場内アナウンス、チームの公式 Web サイトや SNS での活動の発信を行いました。また 2022 年より、女子の育成年代の大会（JFA U -18 女子サッカーファイナルズ、JFA 全日本 U -18/U -15 女子サッカー選手権大会）において、リスペクト・フェアプレーを共有すべく、キャプテンミーティングの開催、リスペクト宣言ボードの作成、キャプテンのスピーチなど、リスペクトセレモニーを実施しています。

WE リーグでの実施事項

リスペクト・フェアプレーの宣言実施

2024-25 ＳＯＭＰＯ WE リーグ 第 3 節（9/29）の 6 試合
両クラブキャプテン（代表者）による宣言の実施

リスペクトフラッグの掲揚

リスペクト・フェアプレーデイズに関わらず、各ホームクラブにてリーグ旗やクラブ旗と一緒に毎試合掲揚

場内放送でのアナウンス

9 月中に開催されるホームゲーム全試合での実施

© WE LEAGUE

© WE LEAGUE

JFA　FIFA が女子健康・ウェルビーイング・パフォーマンスプロジェクト発信

さまざまな分野の研究や開発において、女性のデータが存在せず、それはサッカーのパフォーマンスについても同様です。長きにわたり、女性のトレーニングは男性の縮小版として実施されてきました。国際サッカー連盟（FIFA）の女子サッカー部門として、女性アスリートの心身の特徴、ゲームの特徴を明らかにし、女性アスリートを女性として準備・トレーニングして健康を守ることを進めていくべく、プロジェクトを組んで発信に至りました。今後、さらに研究を進めていきます。日本でもこの情報を広げ、みんながアクセスでき活用できるようにしていきます。

FIFA 公式 Web サイト
https://www.fifa.com/womens-football/fifa-female-health-project-snapshot

JFA.JP 上でも『スナップショット』日本語訳と共に展開しています。

JFA 公式 Web サイト
https://www.jfa.jp/women/FIFA_Female_Health_Project/

JFA　ピンクリボン運動への取り組み

JFA は、WE リーグ、なでしこリーグと共に、乳がんの啓発活動である「ピンクリボン運動」に賛同し、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝える「ピンクリボン運動」に参加し、啓発に取り組んでいます。10 月の「ピンクリボン月間」では、なでしこジャパンを代表し、南萌華選手、熊谷紗希選手、北川ひかる選手からの賛同コメントを発表しました。

JFA 公式 Web サイト
https://www.jfa.jp/social_action_programme/pinkribbon2024/

JFA　女性審判員の産前・産後サポート

● 出産・育児を経た復帰

休止を除く 52 人の 1 級審判員のうち、１級になってから出産を経て復帰した審判員は 5 人です。出産後も復帰を目指す審判員もおり、審判員の選択肢も広がっています。

宿泊を伴う研修会では、お子さんを連れて参加するケースや、試合会場へお子さんを連れて行くケースもあります。より活動しやすい環境整備のために、関係する機関やリーグと共に、今後はさらに踏み込んだサポートを実現していくことが課題です。

● 復帰に向けてのサポート

審判員が担当カテゴリーの割当てを受けるためにはいくつかの条件があります。そのうちの一つがフィットネステストに合格することです。出産から復帰をする審判員も同様の条件になります。産後復帰のスムーズにするための一助として、トレーニングサポートを実施しています。トレーニングサポートは、専門性が必要な観点から JFA フィジプロメンバー協力のもと行い、指導内容によってはオンラインでの対応も可能としています。

※休止をしている場合、休止解除をしてからサポートが受けられる

JFA | .WE LEAGUE 現役選手の産前・産後サポート

JFA の指導の下、国立スポーツ科学センター（JISS）スタッフによる妊娠期・産後期のサポートに関する包括的な支援体制が整備されています。所属チームや地域の専門家（チームドクター、トレーナー、近隣大学等）が対象選手を支援する際に活用できる制度です。

● 支援体制整備

所属チーム、JFA、JISS のスタッフが選手の抱える課題に合わせてサポート体制を検討する仕組みが構築されています。

メディカルチェック：スポーツドクター（内科、整形外科、婦人科）による診療や理学療法士による機能評価を実施できる体制が整えられています。

● トレーニングサポート

妊娠経過や出産状況に応じたトレーニングプログラムを提供できる設備が用意されています。

● 栄養サポート

妊娠期・授乳期の栄養管理や競技復帰に向けた食環境整備について相談できる体制が整備されています。心理サポート：対象選手の心身状態を把握し、必要に応じた心理支援やカウンセリングを提供する仕組みが設けられています。

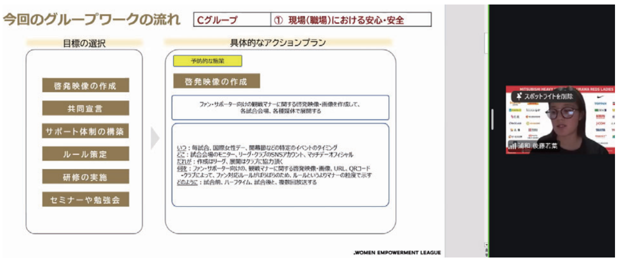
妊娠・出産を経た選手の競技復帰を支えるための基盤として活用できるよう整えられています。

.WE LEAGUE WE ACTION MEETING「安心・安全」

３シーズン目となる 2023-24 シーズンの WE ACTION MEETING には、選手会とのミーティングである「WE DIALOG」の中で、実際に選手からあがった課題を基に、「女子アスリートが安心・安全に競技ができる環境を整える」をテーマとして取り上げました。２回のミーティングでは、クラブスタッフから、女子アスリートにまつわる身近な課題が共有され、グループごとに「目指したい姿」「課題解決に向けたアプローチのアイデア」「実現性について」と順序立てて議論を進めました。課題解決の方法として、「ファンやサポーターとの関わり方のガイドラインを設け、クラブや選手向けの研修を行う」「OG のセカンドキャリアの事例を調査して現役選手に周知する」「ファンの方とオープンな交流ができる場を開設する」「J リーグを参考に課題解決する」など、様々な案が発表されました。

解決施策の一つとして、グループの多くが提案した「啓蒙動画の制作」を採用し、動画を作成しました。

WE リーグ公式 Youtube チャンネル
啓蒙動画「女子アスリートが安心・安全に競技ができる環境を整える」
https://youtu.be/-nvA0eJRSDI



.WE LEAGUE 「WE リーグなんでも相談窓口」の開設

安心・安全な環境の構築を目指して、選手、スタッフ、リーグ職員が利用できるコンプライアンス相談窓口を開設しています。

Well-being アドバイザー

スポーツドクターの辻秀一先生とメンタルケアに関するアドバイザー契約を締結。WE リーグが主催する各種研修の講師業務や選手から相談を連絡することもできる体制を整えています。

.WE LEAGUE 託児施設の設置

WE リーグ参入基準に「授乳室および託児施設を設置すること」という項目があり、試合開催日にはスタジアム内に託児施設が設けられています。小さいお子さんのいる方でも最後まで試合を楽しく観戦していただけるよう、各クラブがお子さんを安心して預けられる託児施設をホームスタジアムにて運用しています。

託児施設の設置は産後復帰した選手だけでなく、ファン・サポーター、クラブ関係者、運営スタッフなど、WE リーグに関わる全ての方の利用を考えたものです。2023-24 シーズンではリーグ戦、カップ戦合わせて 122 名が利用。WE リーグ主催のクラシエカップ準決勝および決勝では、定員は満員となり、「WE リーグには託児所がある」ということが、少しずつですが浸透してきたようです。

各クラブの託児施設については、WE リーグ公式 Web サイトをご覧ください。

WE リーグ公式 Web サイト
WE リーグ 各クラブの託児施設について
https://weleague.jp/news/1423/

© WE LEAGUE

JFA O-30・O-40 大会での選手のお子さんのベンチ入り

2024 年 3 月の JFA 第 35 回全日本 O-30 女子サッカー大会、JFA 第 35 回 O-40 女子サッカーオープン大会は、当該チームはマッチコーディネーションミーティングで共有いただき、チームが責任をもって危険がないように管理する条件で、子どもたちがベンチ周辺にいて OK としました。

教育と研修

JFA/WE リーグ女性リーダーシッププログラム（JWLP）

第 5 期を開催

JFA と WE リーグは、2020 年に「サッカー界・スポーツ界を牽引する女性役員・経営層の育成」を目的に、本プログラムを開設しました。

2024 年 6 月〜 10 月には第 5 期を開催し 11 人が修了、開講から 5 年間でこれまで 61 人の修了生を輩出しました。開設当初から掲げている本プログラムの柱は「女性とジェンダー理解」「マインド改革」「経営リテラシーの獲得」の 3 点です。さまざまな領域で活躍される講師をお招きし、これまで女性が社会の中で置かれてきた立場や役割の歴史をひも解きながら、その結果、女性が抱えやすいと言われている心理的な障壁や内面的な特徴に自ら向き合い、それを乗り越えていく方法を仲間と共に学びます。そして、経営層として必要な実務スキルに加え、サッカーやスポーツの価値を今一度みんなで考え、最終課題の発表につなげています。今年は、第 4 期生で今年長野 FA の会長となったマキナリー浩子さんからもお話をいただきました。

受講生の所属は、47 都道府県サッカー協会（FA）、WE リーグクラブ、なでしこリーグクラブ、J リーグクラブ、リーグや連盟など多岐にわたり、男子サッカー、女子サッカー、フットサル、障がい者サッカーなど競技の垣根を超えたメンバーが共に学んでいるのも、本プログラムの大きな特徴です。ここで得たネットワークをそれぞれの業務・事業に生かし、新しい日本サッカーの未来を生み出すことを期待しています。第 5 期となる今年は、同窓会を実施。卒業生と第 5 期生の対面での交流もありました。この強力なネットワークの素晴らしさをあらためて実感しました。

JFA 公式 Web サイト
https://www.jfa.jp/social_action_programme/womens_empowerment/

第 5 期は FIFA の女子サッカー発展プログラムの一環として実施し、FIFA からの支援と、特別レクチャーがありました。世界でも女性リーダーの育成は重要課題の一つです。意思決定層に、女性を含めたさまざまな背景を持った人が参画することは、日本サッカーの成長にとって欠かせません。JFA と WE リーグは引き続き、女性リーダーの育成に取り組んでいきます。

全体概要

[目的]

サッカー界・スポーツ界を牽引する女性役員 / 経営人材を育成する。

[主催]

JFA、WE リーグ

[受講資格]

次の事項のいずれかを満たし、今後組織での経営人材を志す女性。

- 9 地域 /47 都道府県サッカー協会において、副会長以上の役職に就く者、またその候補者
- WE リーグクラブの経営人材候補者
- その他、サッカー・スポーツ関連団体における経営人材候補者

[研修内容]

- 1 カ月ごとに週末の集合研修として、４回のモジュールを実施
- 間の学習
- アウトプット：個人課題・グループ課題の発表
- シンポジウム
- プログラム終了後のフォローアップ

プログラム内容

プログラムの柱

1 女性とジェンダー理解　2 マインド変革　3 経営リテラシー獲得

プログラム構成

Eラーニング・課題図書

経営基礎
- ガバナンス
- 財務
- 人事
- マーケティング 等

講義

マインド変革
- リーダーシップ
- セルフマネジメント 等

スポーツ業界特有の知識
- スポーツ団体のガバナンス
- コンプライアンス　等

女性とジェンダー
- 組織における女性リーダーの存在意義
- 男性型組織の特徴・女性が組織で陥る罠、障壁 等

→ **グループワーク・対話** → **プロジェクト最終発表**

メンター制度

縦・横のネットワーキング

自組織の風土改革・自組織（男性）リーダーのコミットメント

プログラム受講者

※所属・肩書は受講時点のもの

期	氏名	所属・肩書	氏名	所属・肩書
1期生	鷲津裕美	公益財団法人北海道サッカー協会　副会長	山本亜里奈	アルビレックス新潟レディーストップチーム兼アカデミー担当マネージャー
	渡辺典子	公益財団法人埼玉県サッカー協会　副会長	初矢千秋	伊賀くノ一 FC　事務局長
	宮崎美由紀	一般社団法人佐賀県サッカー協会　副会長	小野寺志保	大和シルフィード　トップチーム GK コーチ
	加藤久美子	長野パルセイロレディース　女子サッカー準備室	巽由香利	日本女子フットサルリーグ　理事
	穴吹侑子	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース　係長	江川純子	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ　事務局長
	小林美由紀	公益財団法人日本サッカー協会　女子委員 ジェフユナイテッド市原・千葉レディース　マネージャー 公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ　理事	手塚貴子	公益財団法人日本サッカー協会　理事 / 女子副委員長
2期生	岸田直美	一般社団法人兵庫県サッカー協会　副会長 AS ハリマアルビオン　代表取締役社長	小室瑞紀	ノジマステラ神奈川相模原　広報・WE リーグ理念推進担当
	片貝仁子	公益社団法人富山県サッカー協会　副会長	北本綾子	オルカ鴨川 FC　GM
	井上有希江	公益社団法人愛知県サッカー協会　理事 / 女子委員長	田中麗美	横浜 FC ニッパツシーガルズ　パートナーセールスグループ次長
	三上尚子	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース　GM	橋本紀代子	大和シルフィード　フロント
	撰朋恵	サンフレッチェ広島レジーナ　強化担当	江崎亜希子	一般社団法人日本クラブユースサッカー連盟　事務局
	柳田美幸	三菱重工浦和レッズレディース	漆間亜美香	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ　管理部部長
3期生	大岩真由美	公益社団法人北海道サッカー協会　理事	船越裕美	株式会社湘南ベルマーレ
	神一世子	一般社団法人神奈川県サッカー協会　理事	清水万理	一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブ
	井手祥子	公益社団法人広島県サッカー協会	伊藤由佳	株式会社セレッソ大阪
	山岸佐知子	公益財団法人日本サッカー協会　理事	小亀多佳	公益社団法人日本プロサッカーリーグ
	高橋薫	ジェフユナイテッド株式会社　次長	風間理佐	一般社団法人日本女子サッカーリーグ
	近藤絵梨佳	サンフレッチェ広島レジーナ	安奈希沙	一般社団法人フットサルクラブ SAICOLO （さいたま SAICOLO）　理事
4期生	高砂佳世	一般社団法人兵庫県サッカー協会　副会長	土井恵	株式会社セレッソ大阪　専任部長
	マキナリー浩子	一般社団法人長野県サッカー協会　副会長	浅野住江	株式会社マイナビフットボールクラブ　主任
	三好公子	一般社団法人愛媛県サッカー協会　副会長	斉藤織恵	ニッパツ横浜 FC シーガルズ　GM
	中西朋子	一般社団法人和歌山県サッカー協会　副会長	柴田若菜	一般社団法人日本女子サッカーリーグ　事務局長
	橋本美湖	公益財団法人北海道サッカー協会　理事 / 女子副委員長	井尻真理子	株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ　営業副部長
	山郷のぞみ	ちふれ AS エルフェン埼玉	西村明子	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ　部長
	山本早	浦和レッドダイヤモンズ株式会社	山田博子	一般社団法人全日本女子野球連盟　会長
5期生	中村千浩	公益社団法人栃木県サッカー協会　副会長	富田真凜	株式会社マイナビフットボールクラブ　主任
	川原幸子	一般社団法人長野県サッカー協会　女子副委員長	種田佳織	株式会社スペランツァ大阪　強化育成統括兼アカデミーダイレクター
	木下温子	公益財団法人福岡県サッカー協会　女子委員長	鈴木優子	東京フットボールクラブ株式会社　経営管理本部本部長
	太田明李	公益財団法人愛知県サッカー協会　女子委員	大野緩奈	アビスパ福岡株式会社　主任
	石﨑民枝	一般社団法人札幌地区サッカー協会　副会長	杉江恵	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ　マネージャー
	佐々木初枝	RB 大宮株式会社		

写真は、第４期生の 47FA 副会長グループのメンバー。左から２番目がマキナリー氏。

特別寄稿

女性唯一の都道府県サッカー協会 会長
マキナリー浩子さん

一般社団法人長野県サッカー協会 会長
JFA/WE リーグ女性リーダーシッププログラム 第４期生

長野県サッカー協会の会長を拝命いたしましたマキナリー浩子です。私はサッカー界出身ではありませんが、このような機会に巡り合い、今年度から会長を務めさせていただいております。

経歴は、大学卒業後すぐに個人で学習塾を創業し、数年後リモート経営をしながらのイギリス留学を経て帰国後、塾内に外国人講師による英会話教室を開設、そこからさまざまなグローバル化支援の新しい事業を立ち上げてきました。４年前に、私を支え共に事業拡大を推進してきた女性に後任の社長を託し、現在は創業者として相談役を務めさせていただいております。

マイノリティとしてスタートした副会長職

サッカー協会との繋がりは、2022 年に突然、経営者仲間からの電話で始まりました。県サッカー協会の副会長をやってくれないかということでしたが、たまに試合を観に行く程度でサッカー未経験だった私には戸惑いがありまた。しかし、私にオファーしてくださった理由が、サッカーをやってきた男性ばかりの同質体質組織から多様性組織へ変革を目指したい、サッカーの知識よりも経営スキルがあって組織構築できる人が必要、さらに女子サッカーの普及も目指していきたいということでした。ダイバーシティは私のライフワークでもありましたので、それであれば何かできるかもしれないと思ってお受けしました。そこから２年間副会長を務めさせていただき、今年度６月に、会長に就任させていただくことになった次第です。

会長を受けるには大きな勇気が必要でしたが、副会長だった昨年、第４期 JFA 女性リーダーシップ研修に参加させていただき学んだ事とそこでできた仲間たちの存在が、背中を押す大きな要因となりました。まず研修の中で個人プロジェクトとして、自分が所属している組織をよりよくするためにできることを考え発表をしていたので、協会の課題と手立てを明確にしながら組織のビジョンメイキングができていました。そして私が会長になることでサッカーにかかわる多くの女性たちに勇気が与えられるかな、喜んでもらえるかな、と思う気持ちも強かったです。特に研修４期の同期仲間の顔が一人ひとり思い浮かんできて勇気が出てきました。

会長就任前の副会長時代は、サッカー界出身でなく女性であることで、とてもマイノリティな存在で孤独な気持ちがしていました。歓迎されてない感じ、自分の役割が何なのかわからない、オファーの電話の時は、多様性組織にしたい、そして女性活躍を推進したい、と言われたのに、私も受身だったのもいけなかったのですが、具体的に何をどうしたいのか、何を期待されているかわからず、理事会などでも発言できず、協会の中での自分の存在の薄さを感じていたところでした。

女性リーダーシッププログラムによる意識変革

そんな中で１年が過ぎたころ、女性リーダーシッププログラムに参加する機会をいただきました。最初の自己紹介で「この研修で自分の軸を見つけたい」と話した記憶があります。まさしく協会の中で軸も持たずに何もできない自分を何とかしたかったのです。研修は毎回、現状の課題と自分の役割を結び付けて考える機会になりました。当時協会の中で戸惑っていた私ですが、研修で仲間に会う度に気持ちを分かり合えたり共感したりしながら、失いかけていた勇気と自信を取り戻してきました。

特に自分の意識が変わったのは、受け身的ではなく自分から発信していかないといけない、と気づいたことです。これまでは、私に何を期待していますか？何をやればいいですか？という姿勢だったのですが、理事会で発言することだけが役割の果たし方ではない、とアドバイスをもらい、自分にできることを考え、自ら行動、実行するようになりました。研修の度にマインドが変わり行動が変わり、ようやく軸ができ始めてから個人課題プロジェクトに取り掛かりました。まずは協会の数人の理事と 1on1 させてもらい、協会の歴史やそこから生まれてきた風土の中で皆がどのように感じてきたのか、これからどうありたいか、サッカーへの熱い思いとそれを通して実現したい夢などを聞かせていただきました。話をする中で、どうであったら「皆が所属していて幸せを感じる組織つくり」ができるのかイメージが浮かび、実現するまでの課題と手立てを私の個人課題の発表としました。1on1 では、皆が情熱をもって組織をより良くしていきたい、変わりたい、という強い気持ちを受け止めました。そして何よりも 1on1 でイ

ンタビューした際に皆が、話を聞いてくれたことに感謝をしてくれたことが印象的でした。皆もっと自分の思いや意見を交換したかったのだと思います。それ以後私は、話しかけられるのを待つのでなく積極的に自分から協会の理事たちとコミュニケーションをとっていくようし、だんだん協会みんなの仲間入りができてきた気がして楽しくなりました。

会長を受ける勇気

　研修の全過程が終了してから数か月経ったころ、協会では前会長が退任することになりました。次期会長を決めるにあたって、これまでの協会の歴史の中で生まれてきた様々な人間関係やしがらみの中で、全く関係のなかったいわばニュートラルな私に白羽の矢が立ったのだと思います。どんな経緯でオファーが来たかは別として、大きな勇気を持てば、自分が研修で発表した「皆が所属していて幸せを感じる組織つくり」を協会の皆のために実現できるかもしれないと思い、オファーを受けることにしました。研修の個人課題で組織について考えていなければ組織改革のイメージが持てず、会長を受けることはできなかったと思います。

　今は就任してから数ケ月がたちますが、これまで先輩たちが築いてきた歴史を刻みながら出来上がっているものをリスペクトしながら変化させていくことの難しさを感じています。企業であれば社会貢献と同時に利益を追求し、それが自分たちの働きに対して報酬で還元されますが、一般社団の協会は基本的に皆がボランティアで活動している社会貢献団体なので、使命感や満足感、やりがいを強く感じられなければ空しくなります。ですからまずは多様性でありながら一体感のある組織、皆が協力し合いながら達成感のある事業活動、を目指しています。私はサッカー界出身でなく協会歴も浅い、わからないことがたくさんある、だから皆さんにたくさん教えてもらわなければいけない、協力してもらわなければいけない。この知らないことを強みにして、謙虚に教えていただきながら新しい発想で皆と一緒に進んでいきます。変革したい、でもしっかりと守りたい歴史もある。だから「私たちは守るために変わるのだ」という皆の思いをしっかりと背負いながら、役割を果たしていこうと思っています。

　副会長時代も会長となった今も「サッカーを知りもしない女が…」と思った人もいるかもしれませんが、今私は自分の軸とビジョンを持って進むことができています。ありがたいことにサッカーのことは周りの人がたくさん教えてくれます。私を支えてくれる専務理事は、ずっとサッカーに関わり長く協会に所属している男性です。私の知らないサッカーの知識や人脈や情報をたくさん教えてくれます。私が企業的な発想でアイデアや意見を言うと「今までそんな風に考えたことがなかった、それはいいですね」と言ってくださるので嬉しくて勇気と自信がもらえています。

　現在、長野県サッカー協会の女性理事は３名です。男性の理事でもサッカー界出身でない方もいます。サッカーばかりでなく皆がそれぞれの分野で自分の強みを活かして組織を発展させてほしいと願っています。女性理事ももっと増やしたいです。女性に理事をお願いしても引き受けてくれない、という話を時々聞きますが、単なる数合わせで理事を頼むのでなく、具体的なビジョンとその実現のためにあなたに期待していることを明確に説明したら興味をもってくれると思います。多様性組織からは変革が生まれ、新しい価値を創造していくことができます。サッカーはやってこなくても女性の感性は協会の発展やサッカーファミリー増大に大いに貢献できるはずです。

サッカー人男性ばかりでなく多様な人の組織であっても、自分たちのビジョンとミッションが明確にされ、しっかりと共有されていれば、より社会に貢献できる面が広く新しくなるはずです。私たち長野県サッカー協会は、長野県の皆さんに何を提供したいのか、何をもって貢献するのか、そのミッションの元に皆が一丸となれる組織になってほしいと思っています。私は私らしい会長をやっていきたいと思っていますので、どうぞ応援してください。

プログラムで得た気づきと仲間は大切な財産

　女性リーダーシッププログラムに参加し、素晴らしい仲間にめぐり逢いました。第４期生には 47FA 副会長さんが４名いました。その４名でグループ課題に取り組む中で、第１期生から４期生までの全国の女性副会長さんたちとも繋がることができ、会長を受ける時も今も、私の心強い大きな支えとなっています。これまでの卒業メンバー全体でも強力なネットワークができています。同期生には、FA ばかりでなくクラブチームや他団体、他競技からも個性豊かな素晴らしい仲間がいました。全国から地域も立場も年齢も様々で、そこで初めて会ったメンバーですが、皆でムーブメントを起こしていこうという一体感の仲間意識が生まれ、その渦の中で大きなエネルギーをもらいました。皆さんの前向きな情熱がすごい刺激になっています。この仲間に出会っていなかったら、会長を受ける勇気は持てなかったと思います。プログラムで得た気づきと素晴らしい仲間は、私にとって大きな勇気と自信になっています。これからもずっと大事にしていきたい大切な財産です。

JFA/WE リーグ女性リーダーシッププログラム受講者の所属内訳（人）

	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期	第 5 期
47FA	3 北海道、埼玉県、佐賀県	3 富山県、愛知県、兵庫県	3 北海道、神奈川県、広島県	5 兵庫県、長野県、愛知県、和歌山県、北海道	5 栃木県、長野県、福岡県、愛知県、札幌地区
WE リーグクラブ	3	4	2	4	2
なでしこリーグクラブ	2	3	1	1	1
J リーグクラブ	0	0	2	1	2
日本女子フットサルリーグクラブ	0	0	1	0	0
リーグ・連盟	3	2	2	3	1
JFA	1	0	1	0	0

講習内容一覧

第5期	基調講演	WE リーグの価値・リーダーシップ	髙田春奈	WE リーグチェア
	講義①	プログラムの目的・女子サッカーの歴史	今井純子	JFA リスペクト委員長
	講義②&ワーク	ジェンダーを理解する	山口理恵子	城西大学教授 神奈川県 FA 理事
	講義③	世界の女子サッカー	小林美由紀	WE リーグ理事
	講義④	WE リーグ初代チェア岡島喜久子さんにうかがうリーダーシップ	岡島喜久子	初代 WE リーグチェア
	講義⑤	ハラスメント・ケーススタディ	小林美由紀・山口理恵子	
	講義⑥	リスクマネジメント	大江修子	TMI 法律事務所 WE リーグ監事
	講義⑦	アサーティブコミュニケーション	小柳茂子	相模女子大学教授
	講義⑧	WE リーグへのチャレンジ～セレッソ大阪堺レディース～	佐伯真道	株式会社セレッソ大阪 レディース事業部部長 兼ゼネラルマネージャー
		個人発表・グループ発表		
		シンポジウム	［ シンポジスト ］ 湯川和之（JFA 専務理事） マキナリー浩子（長野 FA 会長・第 4 期生） 中西朋子（和歌山 FA 副会長・第 4 期生） 根塚武（富山 FA 会長）	［ ファシリテーター ］ 山口香（JFA 常務理事）

JFA | WE LEAGUE 海外との情報共有

● FIFA サポート＋オンラインセッション

2024 年は、女性指導者、女性リーダーの養成に関し、FIFA の女子サッカー発展プログラムの支援を受けて進めました。その関係で、FIFA からのオンラインセッションを受けることができました。

[女性リーダーシッププログラム FIFA スペシャルセッション]

11 月 18 日に、女性リーダーシッププログラムの一環で、FIFA スペシャルセッションとして、女性ロールモデル 3 名を招いてオンラインで講習を受けました。

3 名の FIFA エキスパートの女性たち（イングランド FA レイチェル・パブロー、スコットランド FA シェリー・カー、メキシコ FA アンドレア・ローデボー）から、自分達の経験、リーダーシップに向かうストーリーをうかがいました。それぞれが女子がサッカーに出会い、続け、その中で徐々にリーダーシップの役割を負っていくことが今よりももっと当たり前でなかった時期からそれをやってきたこと、立場を経験する中でのリーダーシップに対する考えを聞かせてくれました。

「それでも壁にぶち当たり困難に直面したときにどうしているか」という質問には、「女子サッカーの価値を信じている。自分達がやらなければ、伝えなければ失われてしまうという強い気持ちを持ち、同じ気持ちを持つ仲間と共に頑張ってきた」と答えていただきました。男性のアライ（協力者）を得ていくことの重要性をどう考えるか、次のリーダーをどのように育て引き継いでいくか等の質問にも答えていただきました。

[女性 C 級 FIFA スペシャルセッション]

12 月 17 日に、女性 C 級の一環で FIFA スペシャルセッションとして、FIFA エキスパートの女性指導者、アナ・シグネウル（スウェーデン）にオンラインで講習を受けました。

自身の指導者としてのストーリーの中から、重要であった側面や能力についてと、ヨーロッパにおける女子サッカーのトレンドについてお話をいただき、受講生に刺激とモチベーションとなりました。受講者からは、「選手の成長を中心においたフィロソフィーに共感した」というコメントや、指導をする上での選手の保護者との関係をどう対応しているかといった質問がありました。

● AFC 女子サッカーカンファレンス

2024 年 11 月 12-14 日に、マレーシアにて、AFC 女子サッカーカンファレンスが開催されました。
アジアの女子サッカーの現状、世界におけるアジアのチームのパフォーマンス、AFC 競技会の発展、また、女子サッカー発展のための障壁を克服するために何をすべきかといったディスカッションが行われました。

● FIFA COACH EDUCATORS’ DEVELOPMENT PATHWAY

FIFA 主催の指導者養成チューター対象の研修会が JFA 夢フィールドで開催され、20 名の参加者中、女性が 7 名参加しました。

オンサイトコース 2024 @ JFA 夢フィールド

日時：2024 年 5 月 27 日～ 31 日

● FIFA TDS Knowledge Exchange UEFA in Zagreb

2022 年から始まった各大陸連盟との連携で実施されている FIFA によるワークショップであり、今回で 11 回目の開催となります。日本から、武末彩子さんが参加しました。

日時：2024 年 11 月 1 日～ 4 日

場所：クロアチア / ザグレブ

目的：ユース育成に関わる各国のテクニカルリーダー

同士の集合と情報交換
FIFA のエキスパートから、今後の TDS プランに対するサポート確認
内容：ユース育成に関わる各国のテクニカルリーダー同士の集合と情報交換
FIFA のエキスパートから、今後の TDS プランに対するサポート確認

参加者のコメント

● FIFA TDS Knowledge Exchange UEFA in Zagreb
JFA アカデミー堺コーチ　武末彩子さん

各国が TDS においてどのようなビジョンやプランを持っていて、その過程で今どんな課題や苦労を抱えているのか、ダイレクトに聞き情報を得られた貴重な機会となりました。どの国もフットボールの長い歴史があり、ヨーロッパはもちろん世界的にも他をリードする立場であるにも関わらず、オープンでさらに学ぼうとする姿勢を強く持っていたことは非常に印象的でした。女子の発展にも、各協会が表面的でなく本気で取り組んでいることが伺えました。

今後のタレント発掘・育成では、ますます協会とクラブが手を取り合ってお互いの役割を果たすことが大切になっていきます。すでに各国が文化や構造に応じたアプローチを試みていることが分かり、日本でも参考にして取り入れられる事例も見つけられました。特に来年からの U-17W 杯の毎年開催がどのようなポジティブと難しさもたらすかを見据えて、長期的な視点を持って準備していくことが求められます。

様々な角度から議論を深めましたが、4 日間共通して出てきたのは「タレントが成長する道のりは、決して 1 つではないし、平坦な道ではない。指導者が選手の可能性を制限したり決めつけてはいけない。一人ひとりの選手それぞれにアップダウンがあり、どのタイミングで芽が出るかもまちまち。全てを拾い上げられる体制を整備することが何よりも重要。」という部分でした。JFA コーチが地域の選手と関わる際にも、心に持ち続けなければいけない考え方だと思います。

日常では得られることのない知恵や知見を得ることができ目が覚めるような 4 日間となりました。JFA コーチやアカデミースタッフとこれら情報を共有して、この先の女子のタレント育成のために何ができるか考える重要な材料にしていきたいです。また、今回築くことができた他国のリーダーとの貴重な繋がりを今後も頼りにして太くし、継続的に情報をアップデートしていきます。

● WOMEN'S LEAGUES FORUM

世界の女子サッカーの発展のために、世界の主な女子トップリーグが連携し、2023 年 11 月 10 日サンディエゴで、ウーマンリーグスフォーラム が設立されました。アメリカの女子プロリーグ NWSL のチェア Jessica Breman とスウェーデンの Annika Gralls を共同チェアとし、日本の WE リーグの髙田チェアも理事の一員として名を連ねました。

女子リーグが協働することにより、好事例の共有、女子サッカーの商業的価値の向上、また、女子のプロフェッショナルリーグとして、世界の女子サッカーの環境改善

に貢献するために、意見をまとめていくことが目的です。協会から独立している女子リーグは、世界でもまだ数が少ないですが、ここ数年の女子サッカーの隆盛は飛ぶ鳥を落とす勢いです。NWSL は、2024 シーズンに、女子スポーツでは記録となる２億 4000 万ドル（約 360 億円）の国内放映権料を結びました。また、イングランドの女子リーグは、2024 年に FA から独立しました。日本も世界の女子トップサッカーリーグの先駆けとして、各国と連携を取り、情報を共有し、日本の女子サッカーの発展につなげて行きます。

● UEFA BUSINESS CASE FOR WOMEN'S FOOTBALL

UEFA（ヨーロッパサッカー連盟）では、ヨーロッパ女子チャンピオンズリーグ決勝の日に、女子サッカーのカンファレンス UEFA BUSINESS CASE FOR WOMEN'S FOOTBALL 毎年開催されています。2023-24 シーズンの決勝は FC バルセロナとオリピックリオン、スペイン・ビルバオのサン・マメススタジアムに 50,827 人の観衆を集めました。

同日の午前中に行われたカンファレンスには、UEFA 各国から代表者が集まり、タレント育成、ガバナンス、マーケティングなどをテーマに、最新情報を共有しました。その中のガバナンスのパネリストとして WE リーグが招待され、小林美由紀理事が登壇。女性登用や選手の産休・育休の扱いなどを定めている参入基準などについて、会場から多くの質問があがりました。世界に先駆けて、トレーニング費用や女性役員を入れた組織構造を義務化した WE リーグは、WOMEN EMPOWERMENT LEAGUE という名称とともに、世界の女子サッカーの中でも注目されている存在です。

.WE LEAGUE 2024-25 WE リーグ クラシエカップ決勝での WE ACTION

渋谷区に所在する実践女子大学の「実践ウェルビーイング・プロジェクト」と WE リーグが協働し、女子大学生が主体となって進める特別プログラムを実施しました。このプログラムは、女子大学生が約２か月間の準備期間を経て、WE リーグを盛り上げるための具体的な施策を考案することを目的としました。2024-25 シーズンのクラシエカップ決勝を最終目標とし、学生たちはサッカーの観戦や体験を通じて、WE リーグに関心を持ってもらうための方法を模索しました。

プログラムの中では、女子大学生ならではの視点を活かし、若い世代に響く施策を企画しました。SNS を活用した観戦呼びかけの投稿では、デザインや文面を工夫し、試合の魅力を効果的に発信。また、試合当日には、国立競技場内でフットケア講座や椅子を使ったエクササイズプログラムを実施し、観戦者がスポーツを身近に感じられる空間を提供しました。

©WE LEAGUE

©WE LEAGUE

WE リーガー研修

WE リーグでは、シーズン開始前に全選手を対象としたオンライン研修「WE リーガー研修」を実施しています。今年で 4 回目となる研修は､「自分の POWER（長所）を生かそう」をテーマに開催しました。

全員の研修の前に行う新入団選手向けの新人研修は、今年度は、なでしこリーグと合同、初の対面形式で宿泊という新しい形で実施。WE リーガー 49 名、なでしこリーガー 54 名が参加しました。プロとアマの違いはあれど、サッカーを中心に生活するトップ女子サッカー選手仲間として、それぞれの目標に向かって一歩を踏み出しました。

WE リーガー全体研修には 177 名が参加。研修の目玉でもある「プロとは」をテーマとした講義では、選手が中心となり、講師に積極的に質問をしていました。午前中の講師、岡田武史氏からは、今治 FC を立ち上げたときの経験から､「WE リーグは、すぐにはうまくいかないかもしれないが、自分達の価値を信じて、努力を続けて進むことが大切だ」という力強い言葉をいただきました。午後は、会長就任時に WE リーグを開幕した田嶋幸三氏。「経営的な側面もあるが、女性活躍など理念の実現をして初めて、プロリーグが成功したと言えると思う」と、改めて理念の重要性を選手達に伝えました。

© WE LEAGUE

WE リーグ公式 YouTube チャンネル
WE リーガー研修
https://youtu.be/YlpSXX0jOZs?si=cbEWybJeCNJwmp5t

新人プロ選手（なでしこリーグとの合同）		プロ選手全員	
7月1日	7月2日	7月8日	7月8日
挨拶・オリエンテーション **講師**　髙田 春奈	**アンチドーピング** **講師**　上東 悦子	**挨拶・イントロダクション** **講師**　髙田 春奈、小林 美由紀	**SNS をうまく使おう** **～発展編～** **講師**　山内 一樹
女子サッカーの歴史・ **リーグの理念** **講師**　今井 純子、小林 美由紀、江川 純子	**トップアスリートとしてのコミュニケーション / メディア対応** **講師**　荻原 次晴	**女子サッカーの歩みと** **ジェンダー** **講師**　山口 理恵子、今井 純子	**ご機嫌な自分になろう** **～スポーツ心理～** **講師**　辻 秀一
SNS との付き合い方 **基礎編** **講師**　山内　一樹	**キャリアデザイン～自分の強みとは～** **講師**　大浦 征也	**契約を守るとは（コンプライアンス・ハラスメント）** **講師**　栗山 陽一郎、中山 祥、海堀 あゆみ	**プロとは** **講師**　岡田 武史、田嶋 幸三
女性スポーツ医学 **～自分の身体を知ろう～** **講師**　高尾 美穂			

原則 5

事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動

JFA パートナー企業との取り組み

JFA は、パートナー企業とともに、社会課題を起点に共創し、サッカーファミリーや世の中に対してポジティブなインパクトを生み出す取り組みを行っています。

●アディダス・JFA 共同プロジェクト「HER TEAM」

©JFA/adidas

女子サッカープレーヤーの 5 人に 1 人が 13 歳になったタイミングでサッカーを辞めてしまうという課題を解決すべく、ボトルネックとなっている中学生年代の女子サッカークラブの創設支援を JFA とアディダスが連携して行うプロジェクトです。

初年度の 2020 年から 2022 年までは毎年 10 チームずつ、2023 年は 30 チームの、計 60 チームが本プロジェクトを通じて新たに創設され、チームユニフォームやサッカークリニック、HER TEAM CUP などのサポートが参画チームに提供されています。

●なでしこ冠試合 MS&AD カップ

MS&AD インシュアランスグループとしては、2015 年より日本代表戦での特別協賛をスタート。2024 年は復興支援試合として金沢にて開催された、「MS&AD カップ 2024 ～能登半島地震復興支援マッチ がんばろう能登～」に特別協賛しました。

対象試合	2024 年 7 月 13 日 vs ガーナ女子代表 （石川県・金沢ゴーゴーカレースタジアム）

試合の前週には開催地の金沢で小学生を対象に「MS&AD サッカー教室」を開催。約 100 名の親子が参加し、中澤佑二さん、澤穂希さんと一緒にサッカーを楽しみました。

©JFA/PR

●なでしこ冠試合 みずほ BLUE DREAM MATCH

©JFA

株式会社みずほフィナンシャルグループ（執行役社長：木原 正裕）と JFA は、10 月 26 日（土曜日）になでしこジャパン（日本女子代表）の国際親善試合を〈みずほ〉の特別協賛で、「MIZUHO BLUE DREAM MATCH 2024」として開催しました。

昨年 10 月の「MIZUHO BLUE DREAM MATCH 2023」（SAMURAI BLUE[日本代表] 対カナダ代表戦）に続き、2 年連続での特別協賛となりました。

●MS&AD 価値共創（なでしこつぼみプロジェクト）

©JFA/PR

中学生女子年代の受け皿となるサッカークラブ設立や運営の支援、事例発信、プレー環境の創出等を目的として、『JFA × MS&AD なでしこ “つぼみ” プロジェクト』が始動。第 1 回目は、11 月 17 日に茨城県水戸市にて、「JFA × MS&AD なでしこ “つぼみ” フィールド」を開催。ピッチには茨城県、栃木県、千葉県、石川県能登から普段は合同チームなどでプレーする約 70 名の女子中学生選手が集まり、元なでしこジャパンの OG ゲスト 6 名と一緒に交流試合を楽しみました。

●なでしこ トラベルケースのプロバイダー契約（サムソナイト [アメリカンツーリスター]）

JFA は、スーツケースのグローバルブランド「アメリカンツーリスター」を展開するサムソナイト・ジャパン株式会社と、なでしこジャパン（日本女子代表）における JFA サポーター契約を締結しました。旅を楽しむすべての旅行者に向けたブランドとして常に進化をしつづけ、90 年以上の歴史を歩んできたアメリカンツーリスターが、スーツケースプロバイダーとして同社のトラベルコレクション「CURIO（キュリオ）」のスーツケースの提供を通じて、なでしこジャパンの快適な旅をサポートいただいています。

©JFA/PR

●アパホテル アパ社長カレー なでしこジャパン Ver

©JFA/PR

JFA と、JFA ナショナルチームパートナーであるアパホテル株式会社（アパホテル）は、サッカー日本代表オフィシャルカレーに関する契約を締結しました。

2023 年 3 月より JFA ナショナルチームパートナーとしてサッカー日本代表のすべてのカテゴリーを支援いただいておりますが、「アパ社長カレー SAMURAI BLUE」、「アパ社長カレーなでしこジャパン」、「アパ社長ごはんサッカー日本代表（包装米飯）」の 3 種類のサッカー日本代表パッケージ商品を展開することで、さらにサッカー日本代表へのサポートを強化していただいています。

●JFA Magical Field inspired by Disney ファミリーサッカーフェスティバル " ファーストタッチ "

女子サッカー普及の取り組みとして、小学生低学年のサッカー未経験の女の子を主な対象とした親子参加型ファミリーサッカーフェスティバル " ファーストタッチ " を全国 12 会場にて開催（内 2 会場は荒天のため中止）。

参加費無料で参加者にはオリジナル記念 T シャツ & ボールをプレゼントしました。

©JFA/PR

タイトルパートナー発表記者会見

2024-25 シーズンよりＳＯＭＰＯホールディングス株式会社と「WE リーグタイトルパートナー契約」を締結。WE リーグの「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」という理念が、「“安心・安全・健康”であふれる未来へ」というパ―パスを掲げるＳＯＭＰＯグループの目指す世界と重なることから、今回の契約締結に至りました。タイトルパートナー発表記者会見では、ＳＯＭＰＯグループで活躍する女性役員と髙田チェア（当時）のトークセッションを行い、多様性社会の実現について熱いディスカッションが行われました。ＳＯＭＰＯグループは、リーグおよび各クラブと WE ACTION DAY を始めとした社会貢献活動を実施することで、目指す世界の実現に取り組んでいます。

また、2023-24 シーズンよりリーグのシルバーパートナーであるクラシエ株式会社が、2024-25 シーズンの WE リーグカップのタイトルパートナーとなりました。「夢中になれる明日」をコーポレートスローガンに掲げるクラシエは､「みんなが主人公になる暮らし」の実現を WE リーグと共に目指しており、WE リーグ クラシエカップで様々な試みを行いました。

WE リーグ 4 シーズン目。理念に共感する仲間の輪が少しずつ広がってきています。

©WE LEAGUE

ＳＯＭＰＯホールディングス公式 WEB サイト
https://stories.sompo-hd.com/ja/people-culture/partnering-with-weleague/

©WE LEAGUE

クラシエ株式会社公式 WEB サイト
https://www.kracie.co.jp/release/10191499_3833.html

ＳＯＭＰＯグループとの協働『防災ジャパンダプロジェクト』

WE ACTION DAY の具体的な取り組みとして､セレッソ大阪ヤンマーレディースが、WE リーグタイトルパートナーであるＳＯＭＰＯグループと協働し、『防災ジャパンダプロジェクト』を実施。また当日は、講義で選手を対象に「防災×多様性×スポーツ～今日からできる防災への備えと次のアクション」を実施。避難所などは性別や年齢、障がいの有無などにかかわらず、たくさんの人が集まる場所。その中で特にジェンダー特有の課題が起こりやすくなります。そうしたときに、どのように行動をしたら良いのか。どのような準備や心がけをしておいたら良いのかということに焦点を当てながら講義を行いました。

©WE LEAGUE

WE リーグパートナー各社の協賛趣旨（ダイバーシティ＆インクルージョン関連事項抜粋）

会社名	協賛趣旨
ＳＯＭＰＯグループ	ＳＯＭＰＯグループは、WE リーグと連携することによって、DEI（ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン）の推進を図っていくとともに、様々な社会･地域課題の解決に取り組み「“安心･安全・健康”であふれる未来」の共創を目指していきます。
ダイハツ工業株式会社	ダイハツは女子サッカーを応援しています。 大好きなサッカーに、もっと夢中で打ち込んでほしい。 サッカーが大好きな女の子たちに、もっと自由に夢を見てほしい。 幼児・小学生から、高校女子サッカー、なでしこリーグ、そしてプロの WE LEAGUE まで。 ダイハツはそれぞれの地域に根ざす販売会社と一丸となって、 サッカーに打ち込むすべての女性と女の子たちの夢に寄り添い続けます。
旭化成ホームプロダクツ株式会社	サステナビリティ視点での情報発信（時短テクニックで仕事と家事の両立を支援し、男女共同参画社会に貢献したい）
パーソルホールディングス株式会社 パーソルキャリア株式会社	“はたらく Well-being”創造カンパニーとしてアスリートの柔軟で多様なはたらき方・キャリア形成を支援。 「WE リーグ」に関わる選手・スタッフへのキャリア支援を通じ、女性のさらなる活躍の場の拡大への貢献とともにグループビジョンである「はたらいて、笑おう。」の実現を推進していく。
クラシエ株式会社	「みんなが主人公になる暮らしを WE リーグと共に実現していく」
株式会社ビーズインターナショナル（X-girl）	選択肢の多様化が進む中、X-girl は WE リーグと共に現代の若い女性が自分らしく生きるための「GIRL’ S MOVEMENT」を起こす。 WE リーグの「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」という理念を、ファッション、ライフスタイルの観点から共創していきたい。
DAZN Japan Investment 株式会社	DAZN ならびに DAZN の持つ 360 度のあらゆるチャネルで女子サッカー・女子スポーツの魅力を伝えていきたい。スポーツ文化に、そしてスポーツの力でより豊か社会を築く
株式会社読売新聞東京本社	読売新聞は、スポーツ報道に加えて、プロスポーツ興行や各種スポーツ大会の開催などを通して、スポーツのすばらしさを伝える活動をしています。2024 年に WE リーグのパートナーとなったのも、その活動の一環です。全国紙のメリットやグループの力を活用して、リーグ全体はもちろん、個々のチームや選手の皆さんの支援に積極的に取り組みます。
KPMG コンサルティング株式会社	地域・企業・個人・チームの共感・共創・共栄、意識改革をサステナブルに 促す仕組みと基盤の構築、一層の「WE ACTION」推進･社会変革ムーブメン ト創出へ向け､「①価値創造ストーリーの策定」､「② WE ACTION 共創型プラッ トフォーム･社会価値算定の実装」､「③ WE ACTION と連動したアクティベーションの推進」をともに行っていく

©WE LEAGUE

セレッソ大阪ヤンマーレディースとＳＯＭＰＯグループで開催した WE ACTION DAY の様子。ＳＯＭＰＯグループと WE リーグとのパートナーシップを機に、WE ACTION として防災の大切さを伝えていく取組みを実施。（ＳＯＭＰＯグループ）

©WE LEAGUE

小学生を対象とした「海堀あゆみと一緒にゴールキーパー体験＆夢について考えよう！」を開催した様子。多様な価値観を持った個人に向き合い、一人ひとりのはたらき方・生き方を応援するという思いを持つパーソルグループと共同で実施した。（パーソル）

WE リーグ公式マスコット「ウィーナ」

　サッカーファンはもちろん、あまりサッカーに興味がない若い女性や子どもたちにも WE リーグに興味を持っていただき、ファンのすそ野を広げたいという想いから、WE リーグの公式マスコットが誕生しました。これから色々な場所にお出かけして、たくさんの方に WE リーグを身近に感じていただけるよう、活動の幅を広げていきたいと思います。WE リーグの「ウィー」と勝者を意味する「winner」をイメージし「ウィーナ」と命名されました。2023-24 シーズンは全クラブのホームスタジアムにお出かけをしました。

©WE LEAGUE

©WE LEAGUE

WE リーグ公式アプリ

　WE リーグをより身近に感じてもらうために WE リーグ公式アプリを公開しました。各メディアや SNS にあるコンテンツをアプリに集約することで、WE リーグの最新情報をファンの皆さんにすぐにお届けすることができます。

WE リーグ公式アプリ
ダウンロード

©WE LEAGUE

©WE LEAGUE

東京都渋谷区に女子サッカー発信拠点「Home of .WE」

　2023 年 10 月、WE リーグおよび日本女子サッカーの情報発信拠点となる「Home of .WE」を渋谷にオープン。女子サッカーに関連する展示や試合結果の表示のほか、WE リーグマスコット「ウィーナ」グッズなどを販売する「Home of .WE」では、女子サッカーをより身近に感じられる場所です。WE リーグ優勝トロフィーなども展示され、日本の女子サッカーの今を存分に感じられるようになっています。

活動報告

原則 6

地域における
リーダーシップと参画

47 都道府県サッカー協会の取り組み

一般スポーツ団体向けのガバナンスコードでは、中央競技団体向けとは異なり、組織運営、編成に関する数値目標は挙げられていません。しかし、国内競技連盟（NF）に準じる公共性の高い団体であり、中央競技団体向けのものを参照しつつ、役員等の多様性の確保に取り組んでいくことが重要です。クラブやリーグ、連盟もこれに準じると考えます。

下表では、47 都道府県サッカー協会（FA）における女性役員の人数と割合の内訳を示しています。役員を増やしていくためにも、サッカー界全体で、女性があらゆる場に一定数いて、そのポテンシャルを発揮できる状態になっていることが大切です。

47FA における役員改選は 2 年ごとであり、WEPs 年次レポートを作成し、47FA、加盟団体などに共有させていただき、そのことで意識していただく協会、団体が増えてきたと認識しています。2024 年には 47FA 会長が誕生しました。副会長は 12 人、総理事数も年々増加しています。多くの女性理事を配置する FA も増えてきています。一方でまだ 0 人のところは減少傾向にあるものの現状 6FA です。１人というところが 14FA です。1 人だけではなかなか力を発揮するのは難しいものです。**ぜひ今後に向けてご準備いただければと思います。**

本レポートや研修機会の提供、また好事例（女性役員を増やしたことによる組織内のポジティブな変化など）、この課題の改善に向けた取り組みをさらに共有し、共に取り組んでいきます。

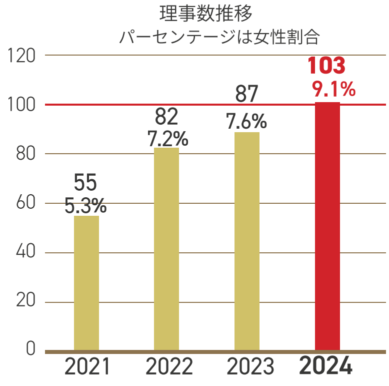
47FA における女性役員の人数と割合

女性会長が誕生

	2021	2022	2023	2024
会長	0	0	0	1
副会長	5	9	10	12
専務理事	0	1	1	0
常務理事	3	4	5	8
理事	47	68	71	82
監事	2	7	7	8
特任理事	6	4	5	4
合計	63	93	99	115

女性理事数	理事総数	女性割合
103 [87]	1,137 [1,208]	9.1% [7.2%]

JFA 評議員 3（長野県 FA、和歌山県 FA、WE リーグ）



女性理事数に対する FA 数の推移

女性理事数 \ FA 数	2021	2022	2023	2024	
0	15	12	10	6	12.8%
1	13	13	13	14	29.8%
2	13	11	13	10	21.3%
3	5	3	4	7	14.9%
4	0	3	2	4	8.5%
5	1	3	3	5	10.6%
6	0	2	1	0	-
7	0	0	1	1	2.1%

女性理事割合に対する FA 数の推移

女性理事割合	2021	2022	2023	2024	
0-1% 未満	15	12	10	6	12.8%
1-5% 未満	9	10	13	9	19.1%
5-10% 未満	13	12	13	12	25.5%
10-15% 未満	8	5	4	9	19.1%
15-20% 未満	1	7	2	6	12.8%
20-25% 未満	0	1	3	5	10.6%
25-30% 未満	1	0	1	0	-

地域 FA の取り組み事例紹介 - 北海道 FA

北海道 FA は、２名の女性副会長のもと、サッカーを通じて女性が輝く社会を目指すなでしこ VISION 実現に向けた取り組みに力を入れています。

【PASS TO THE FUTURE 北海道のフットボールを支える女性たち vol.2】

JFA が製作した『サッカー×キャリア×未來』に着想を得て 2021 年に北海道で指導者や審判・運営スタッフとして活躍する女性を紹介した冊子を発行し、サッカーに関わり続ける手立てや北海道の各地区の状況を伝えるツールとして少なからぬ反響をいただきました。３年が経過して、第二弾がのぞまれるほど多くの女性が道内で活躍しており、2024 年３月８日に発行に至りました。第二弾では、女子サッカーに関係する事業紹介の頁も設け、事業に関わる男性スタッフも紹介し、オール北海道で女子サッカーを盛りあげる様子を知っていただけるものとなりました。

HKFA 公式 WEB サイト
https://www.hfa-dream.or.jp/committee/women/

【オンライン講演会 挑戦し続けること～成長への鍵～二人の女性国際審判員に学ぶ】

2024 年は、北海道出身の２人の国際審判員、大岩真由美氏と手代木直美氏の講演会を開催し、挑戦しつづけることの意味と挑戦することで得られる成長や学びについてお話をうかがいました。審判員だけではなく、高校生を中心とした選手たちが数多く聴講し、大きな刺激を受け、また審判員をリスペクトする機会にもなりました。

.WE LEAGUE 地域との取り組み

WE リーグは 2023 年６月、「多様性社会の実現を目指す」という理念を共有する渋谷区と協力・連携協定を締結しました。

2024年9月には、髙田チェア（当時）、海堀コミュニティオーガナイザー、ウィーナが渋谷区役所を訪問し、渋谷区長と直接対話を行いました。この表敬訪問では、これまでの取り組みを振り返るとともに、新たな連携強化策を話し合い、具体的なアクションプランの検討を進めました。双方の課題を共有し、解決に向けてスポーツの力を活用する方向性を確認しました。

具体的な活動としては、渋谷区のスポーツフェスティバルへの参加や、小学校・幼稚園での朝の挨拶運動の実施が挙げられます。さらに、渋谷区のネットワークを活かし、B リーグのアルバルク東京との協働イベントも実現しました。

©WE LEAGUE

©WE LEAGUE

活動報告

原則 7

透明性、成果の測定、報告

本原則に対する取り組みは、まさにこのレポートです。年次レポートを作成して現状や成果をフォローし、また好事例を共有しつつ、課題に対して一つひとつ粘り強く取り組んでいきます。昨年、１年目のレポートを作成して発信したことで、サッカーファミリーの皆さんに情報を届け、各組織の中でご検討いただけたケースが多くあったことを実感しています。本レポートをサッカー界で共有することで、この課題自体への理解を広げるとともに、さらに深めていただき、課題意識を持つ仲間を増やしていきます。

【関連の取り組み】

「女性登用の見える化」と各クラブによる「WE ステートメント」（20 ～ 22 ページ参照）

▶ 女性活躍推進活動の振り返り（一覧）

	JFA	JFA & WE リーグ	WE リーグ
原則 1	● なでしこ vision ● JFA 理事会 ● JFA 規則：妊娠 / 出産に関わる契約上の不利益の禁止 ● JFA 女子サッカーデー	● WE リーグ開幕 ● なでしこリーグビジョン・ステートメント	● WE リーグの名称とロゴ ● WE リーグの理念とビジョン ● 理念推進のために設定した参入基準 ● WE リーグクレド（行動規範） ● 価値創造ストーリー ● 優勝チームに贈られる「WE リーグトロフィー」 ● 理念推進日「WE ACTION DAY」 ● 「ALL WE ACTION DAY」 ● WE ACTION MEETING
原則 2	● アクセス・フォー・オール宣言 ● サッカーファミリーにおける女性の人数 ● JFA の役員・職員における女性の人数 ● 女性指導者について ● 国際的に活躍する女性指導者 ● 女性審判員について ● 障がい者サッカーでの女子日本代表活動 ● あらゆる場面での女性の活躍		● WE リーグ・なでしこリーグの役員・職員における女性の人数 ● WE リーグの女性登用の見える化 ● WE リーグステートメント ● WE MEETING
原則 3	● FIFA が女子健康・ウェルビーイング・パフォーマンスプロジェクト発信 ● ピンクリボン運動への取り組み ● 女性審判員の産前・産後サポート ● O-30・O-40 大会での選手のお子さんのベンチ入り	● ウェルフェアオフィサー制度 ● リスペクト・フェアプレー ● 現役選手の産前・産後サポート	● WE ACTION MEETING「安心･安全」 ● 「WE リーグなんでも相談窓口」の開設 ● 託児施設の設置
原則 4		● JFA/WE リーグ女性リーダーシッププログラム ● 海外との情報共有	● 2024-25 WE リーグクラシエカップ決勝での WE ACTION ● WE リーガー研修
原則 5	● パートナー企業との取り組み		● タイトルパートナー発表記者会見 ● WE リーグパートナー各社の協賛趣旨
原則 6	● 47 都道府県サッカー協会の取り組み		● 地域との取り組み
原則 7		● 年次レポートの作成	

※競技そのものに関わる項目は除外して記載

I N F O R M A T I O N

女子サッカー　TOPICS 2024

第 33 回オリンピック競技大会 (2024/ パリ)

2024 年 7 月 24 日～ 8 月 11 日（サッカー競技日程：7 月 25 日～ 8 月 10 日）、パリにてオリンピックが開催されました。全体が 12 チームの参加という非常に絞られた国によるこの大会、今年 2 月までに実施されたアジア予選を経て、アジアからは日本とオーストラリアが参加しました。結果はグループステージを 2 位で突破、準々決勝でアメリカと対戦、延長戦の末 1-2 で敗れ、ベスト 8 となりました。大会はアメリカの優勝で幕を閉じました。

JFA 公式 WEB サイト
https://www.jfa.jp/nadeshikojapan/news/00034207/

FIFA U-20 女子ワールドカップコロンビア大会　AFC U20 アジアカップ
FIFA U-17 女子ワールドカップドミニカ共和国大会　AFC U17 アジアカップ

2024 年には育成年代の 2 つのアジアカップ、ワールドカップが開催されました。U-20 は、3 月にウズベキスタンで開催された AFC U20 女子アジアカップで準優勝、9 月にコロンビアで開催された FIFA U-20 女子ワールドカップでも準優勝でした。日本は松窪真心選手がシルバーボール、土方麻椰選手がブロンズブーツ、チームとしてフェアプレー賞を受賞しました。

U-17 は、5 月にインドネシアで開催された AFC U17 女子アジアカップで準優勝、10 ～ 11 月にドミニカ共和国で開催された FIFA U-17 女子ワールドカップでベスト 8 でした。

なお、FIFA U-20 女子ワールドカップでは女性監督が 24 チーム中 13 チーム（54.2%）、FIFA U-17 女子ワールドカップは 16 チーム中 9 チーム（56.3%）でした。

AFC アニュアルアウォーズ

アジアサッカー連盟 (AFC) は 2023 年度の年間表彰式「AFC アニュアル・アウォーズ 2023」を行い、FW 清家貴子 (浦和 L →ブライトン) が年間女子最優秀選手に選出されました。また、年間女子最優秀ユース監督に岡本三代さんが選出されました。

FIFA 女子サッカーストラテジー 2024-2027

FIFA は 2024 年 8 月に女子サッカーストラテジー 2024-2027 を発行しました。急速に発展する女子サッカーをモニターする形で、2018 年に初めて出されたストラテジーを次のサイクルに向け更新したものです。「女子サッカーは飛躍的に成長しており、このスポーツに対する情熱と潜在能力は、未開拓の大きな可能性を提供しており、サッカー最大の成長機会となっています」とし、主要な目標としては、参加の拡大、コマーシャルバリューの促進、基盤の構築を掲げています。

FIFA 公式 WEB サイト
https://digitalhub.fifa.com/m/16fe7c8e9a285f15/original/FIFA-Women-s-Football-Strategy-2024-2027_EN.pdf

全日本高等学校女子サッカー選手権大会

2024 年 12 月 29 日開始の第 33 回大会より、参加チームは、47 都道府県協会から選出された 47 チーム、および配慮 5 枠（宮城県、東京都、静岡県、大阪府、兵庫県）の各 1 チームを加えた計 52 チームとなりました。全ての都道府県で、全国大会出場のチャンスが広がります。高校での女子サッカーの発展が期待されます。

FIFA TDS の一環で、女子初のストライカー＆ GK キャンプを男女合同で実施

FIFA が展開する Talent Development Scheme プログラムの一環で、ストライカーとゴールキーパーの育成を目的としたトレーニングプログラムを開催しました。今回初の男女同時開催、そして女子としては初めてのストライカーキャンプとなりました。今回はストライカーとゴールキーパーの 2 つのポジションを融合させることで、それぞれのポジションにとって有益なプログラムにすること、そして男女同時開催することで、日本国内における共通課題と男女別の課題を抽出し、国内での育成環境を更に発展させ、より国際競争力を有する選手を育成していくことを目指しました。

第 78 回国民スポーツ大会

第 78 回国民スポーツ大会が佐賀で開催されました。2021 年に少年女子の種別が創設されて以来、初めて成年女子、少年女子の女子 2 カテゴリーが実施されました（成年種別は男女隔年）。成年女子は広島県、少年女子は静岡県が優勝しました。

佐賀市提供

.WE MAKE FOOTBALL

みんなが主人公になるためにプレーする。

2024-25 SOMPO .WE LEAGUE

2024-25 .WE LEAGUE Kracie CUP

発行：公益財団法人日本サッカー協会
www.jfa.jp
監修：公益財団法人日本サッカー協会・公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ

本誌の記事・写真・図表・ロゴマークなどの無断転載を禁じます。